2001年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
教育社会学		通期	4単位	宮崎和夫

［講義概要・学習目標］

教育社会学は、教育と社会の関係を社会学の方法で研究する科学である。教育の問題は、今や学校のみならず家庭や地域社会など広範囲で大きな社会問題になっていることが多い。

本講義では、現代社会の特質からくる教育の諸問題を積極的に取り扱う。たとえば、神戸の少年殺人事件や東京の２歳児の殺人事件にまでなった「お受験」事件をはじめ学歴社会問題、受験戦争問題、家庭や地域社会の教育力の低下問題等と非行や逸脱行為、少年犯罪との関連、いじめや不登校問題、若者文化と流行、マンガ文化やＴＶ文化の教育への影響問題などいろいろな教育問題と学校組織の構造的問題点との関連を具体的かつ多面的に考察する。

その中で、教育と現代社会の特質との関連を分析する社会学的視点を論究するとともに、現代教育が抱えている諸問題を実証科学的に分析し考察する。

［講義計画］

〈前期〉

1．現代社会の特質と教育
2．情報化社会と教育
3．国際化社会と教育
4．少子高齢社会と教育
5．学歴社会と教育
6．現代社会と学校病理
7．生涯学習社会時代の到来

〈後期〉

8．学力保障と教育機会
9．ジェンダー・ハビトッスとの再生産とジェンダー資本
10．社会階層と教育
11．組織としての学校と教職という仕事
12．学校問題としてのいじめ現象
13．社会変動と教育改革

［成績評価の方法］

学年末試験の成績と年間数回提出してもらうミニレポートなどを総合して評価する。

［教科書］

宮崎和夫（編著）「現代社会と教育の視点」（ミネルヴァ書房）

［参考文献］

1．宮崎和夫（編著）「生徒指導の理論と実践」（学文社 ）
2．宮崎和夫（編著）「新現代教育原理」（学文社）
3．宮崎和夫（編著）「教職論」（ミネルヴァ書房）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
教育哲学		後期	2単位	徳永正直

［講義概要・学習目標］

無力な赤ん坊が「教育」と「学習」を通じて発達し、それぞれの人間性を実現していく過程を、「社会化」「文化化」「精神化」「人格化」の過程として捉え、とりわけ「社会化」「文化化」の過程に関連して、言語の人間形成論的意義をボルノー（O.F.Bollnow）やブーバー（M.Buber）を手がかりとして明らかにする。また、「精神化」「人格化」に関連して道徳性の発達や本来の自己としての実存の問題を、コールバーグ（L.Kohrberg）やフランクル（V.E.Frankl）の考え方を参考にして検討する。

教育哲学のなかで、「教育」という事象を根源的、全体的に捉えることの重要性に気づくことができれば幸いである。

［講義計画］

①教育事象を哲学するということ
②「教育されねばならない動物」（animal educandum）としての人間
③ゲーレン（A.Gehlen）の人間学
④ボルノーにおける言語の人間学的考察
⑤ブーバーの対話的原理について
⑥コールバーグの道徳性発達の理論と普遍妥当的道徳律
⑦フランクルの実存分析あるいはロゴテラピーについて
⑧自我同一性と十牛図
それぞれのテーマについて約二時間解説し、人間形成論的意義を一緒に考えてみたいと思う。

［成績評価の方法］

定期試験によって評価するが、履修者が少ない場合には平常点を考慮し、場合によってはレポート（2000字以上）で評価する。

［教科書］

教科書は用いず、そのつどレジュメを配布する。

［参考文献］

講義中にそのつど指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
教育史		後　期	２単位	岡　本　洋　之

［講義概要・学習目標］

教育史とは、文字通り教育の歴史である。しかし「歴史」といわれると暗記ばかりで苦痛なもの、難しい人名や地名ばかりで無味乾燥なものというイメージが付きまとう。多くの小・中・高校での誤った歴史教育がそのようなイメージをつくりあげてしまったのは残念である。

本授業では、教育の通史は扱わない（通史を学びたい人には、［参考文献］欄に示した山住書が面白く読めるのでそれを薦める）。その代わり、「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけではなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広くとらえることにし、みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることを知ってもらう。こうして少しでも教育史に親しんでもらうことが、本授業の目標である。

［講義計画］

まず、左欄で述べた「教育」の関わる範囲を広くとらえるとはどういうことかを、教科書を見ながら確認する。

そのうえで、受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを１冊以上選び、その内容を紹介する報告書（１冊につきＢ５サイズ１枚）を提出する。

こうして報告された本に関して、立候補（または指名）により決められた発表者が、本の中の教育史的内容と感想を順次口頭発表する。

時間の関係で発表できなかった者は、同様の内容のレポートを提出する。

★題材として取り上げうる本の例……妹尾河童『少年Ｈ』、さくらももこ『まる子だった』、黒柳徹子『窓際のトットちゃん』、司馬遼太郎『竜馬がゆく』、ヘルマン・ヘッセ『車輪の下』、サンテグジュペリ『星の王子さま』、童門冬二『上杉鷹山』ほか。

［成績評価の方法］

提出物の内容のほか、授業中の発表またはレポートによる。

［教科書］

石附実『教育博物館と明治の子ども』（福村出版）

［参考文献］

山住正巳『日本教育小史』（岩波新書）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
教育行政学		後期	2単位	金子　勉

［講義概要・学習目標］

教育行政は「包括的な権力団体としての国家または地方公共団体が、教育政策を定立し、公的承認を受けながら、それを現実化する作用・行為」と定義される。現実の社会において、公教育の実施を保障する教育行政の役割と責任は重大である。

教育行政が行政の一分野であることはいうまでもなく、それゆえ教育行政には規制作用が伴う。しかし、教育行政の特徴は、教育条件の整備という、助成作用が、その主要部分を占めるところにある。人間形成を通じて社会の発展を支援することは、教育行政の責務である。

講義では、まず、教育行政を特徴づける基本原理として「法律主義」、「地方自治」、「教育の自主性・専門性の尊重」をとりあげ、伝統的な学説と現状について講述する。次に、いくつかの教育政策に関する立案・実施過程をとりあげて、教育行政の個別領域における理論と実際の諸相を、具体的に解説する。そして、急激に変化する社会において、教育行政に期待される役割について、理解を深めることとしたい。

［講義計画］

1　教育行政の概念
2　教育行政における法律主義
3　教育行政における地方自治
4　教育の自主性・専門性の尊重
5　中央教育行政の組織
6　地方教育行政の組織
7　教育行政と学校経営
8　教育財政
9　私学行政
10　教育政策と審議会
11　諸外国の教育行政

［成績評価の方法］

レポートおよび学期末試験による。

［教科書］

使用しない。

［参考文献］

市川昭午『教育行政の理論と構造』教育開発研究所
市川昭午『臨教審以後の教育政策』教育開発研究所
黒崎　勲『教育行政学』岩波書店
平原春好『教育行政学』東京大学出版会
村山英雄・高木英明編『教育行政提要』ぎょうせい
文部省『我が国の文教施策』大蔵省印刷局

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
教育法規		前期	2単位	金子　勉

［講義概要・学習目標］

元来、教育は私事であり、国家の関与を前提とするものではなかった。しかし、近代公教育制度の成立以後は、学校教育の重要性が明白になり、国家的な関心が高まった。
国家が教育に関与するとき、その在り方は助成的で、また、規制的である。例えば、義務教育を実施するために、制度的・財政的な支援が行われる。しかし、その反面、義務教育に関する、さまざまな規制が存在するのも事実である。
そのような国家と教育の関係は、教育法規によって規律される。それは、憲法や法律のほか、各種の命令から成り立ち、きわめて複雑な体系を形成している。そこで、この講義では、教育法規のなかから、特に重要なものを取り上げ、その内容と解釈について、講説する。
なお、最近は、社会の急激な変化に対応するために、教育法規の改正が頻繁である。そこで、「今、教育に何が起こっているのか」を問いながら、生きた教育法規の理解を目標として授業をおこなう。

［講義計画］

1　教育法規の体系と種類
2　憲法・教育基本法
3　学校教育法
4　学校設置基準・標準法
5　学習指導要領・教科用図書
6　文部科学省設置法
7　地方教育行政の組織及び運営に関する法律
8　私立学校法
9　国家公務員法，地方公務員法，教育公務員特例法
10　教育職員免許法
11　社会教育法

［成績評価の方法］

レポートおよび学期末試験による。

［教科書］

使用しない。

［参考文献］

解説教育六法編修委員会『解説教育六法』三省堂
中央教育審議会「今後の地方教育行政の在り方について」（答申）

菱村幸彦『やさしい教育法の読み方』教育開発研究所
鈴木勲編著『逐条学校教育法』（第4次改訂版）学陽書房
木田宏『第二次新訂逐条解説地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第一法規
宗像誠也『教育と教育政策』岩波書店
兼子仁『国民の教育権』岩波書店

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
教育工学		後　期	2単位	藤間　真

［講義概要・学習目標］

IT(Information Technology)は私たちの社会に深く根付いてきた。
教育の現場においても、コンピュータネットワークを活用した情報の受信、収集、発信が重要視されつつある。
しかし、コンピュータを導入することで世界がバラ色になるわけは無い。「考えること」を一部置換する機械を、もっとも人間的であるべき教育の場に導入することに関しては、「教育」についても「人間性」についても真剣に問い直されなければならない問いが内包されている。
本講義の目的は、いくつもの問題提起を行うことによって、目先のことに踊らされず工学の教育への応用に対応するための骨太の思考ができるよう訓練することである。

初心者に対する配慮は行うが、初心者向けのコンピュータリテラシー教育を行うことは予定していない。
また、実習は行うが、個々のアプリケーションの利用法の伝授を主目的とはしない。
尚、コンピュータ利用技能に関して不安のあるものは5月に予定されている計算機センターガイダンスに出席することを強く推薦する。
試聴期間に講義が無いことの代換措置については、試聴期間に掲示する。その代換措置によって講義の詳細も提示する。後期科目ではあるが、履修を検討する諸君は試聴期間から掲示に注意すること。

［講義計画］

予定している話題は下記の通りであるが、講義の進捗状況及び社会情勢によって変化することもあり得る。

・始めに
・生産性のパラドックスと教育における生産性
・「考える」とはどのようなことか
・IT時代における「調べる」ことについて
・ワープロの時代の「書くこと」について
・コンピュータの子供への影響
・コンピュータの学習への影響
・コンピュータを用いた教授手法

［成績評価の方法］

学年末レポートを中心に総合的に評価する。

［教科書］

［参考文献］

講義中に指示する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
教育評価論		後　期	2単位	島田勝正

［講義概要・学習目標］

本講義の目的は、次の2点である。
1．テスト理論、特に「良い」テストの条件である妥当性、信頼性、実用性について、理解し、テスト結果を分析できるようになること。
2．教育研究、教育実践に必要な統計処理をパソコン(Ｅｘｃｅｌ)を使って出来るようになること。
授業はすべて、学生参加型のワークショップの形態をとる。

［講義計画］

1．ガイダンス(教育評価)
2．テストの目的と種類
3．集団準拠テスト(相対評価)、目標準拠テスト(絶対評価)
4．分布、分散、標準偏差、標準得点、偏差値、5段階評定、相関
5．パソコン実習1
6．妥当性（内容妥当性、構成概念妥当性、併存的妥当性、予測的妥当性）
7．信頼性（再テスト法、折半法、クロンバックα、KR20）標準測定誤差
8．パソコン実習2
9．項目分析(項目困難度、項目弁別度　点双列相関係数)
10．パソコン実習3
11．等化
12．古典的テスト理論、現代テスト理論（項目応答理論）
13．定期試験

［成績評価の方法］

課題　　数回　50%
試験　　1 回　50%

［教科書］

使用しない

［参考文献］

池田　央　「テストの科学―試験にかかわるすべての人に―」
日本文化科学社　1992

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
図書館学		後期	2単位	平井　尊士

［講義概要・学習目標］

まず、図書館情報学の概念について平易に解説する。
次に図書館の役割について把握し、図書館のもつ機能について考察する。「情報と図書館」、「情報社会と図書館」、「生涯学習と情報環境」について、様々な問題提起をしながら検討する。
最後に図書館を構成する要素を、資料・情報、建物・環境、司書・メディア（専門職）、利用者についてどのように関連しているか、具体的に、情報環境と対応させながら考察する。
特に、学術情報を中心とした大学図書館に焦点を置き、大学図書館の機能について論じ、図書館の将来構想、情報技術の取り入れ方などを中心に検討する。
さらに図書館を構成する要素のうち最も特徴的な要素、資料・メディアについても具体的にどのように図書館と関わり合いをもつか、検討する。

［講義計画］

1．図書館とは
2．図書館情報学とは
3．情報、メディアとは
4．情報社会と図書館
5．情報環境を構築するには
6．図書館の構成要素と図書館システム
7．大学図書館と学術情報
8．大学図書館の現状と問題提起
9．大学図書館の将来構想
10．大学図書館を取り巻く問題
11．まとめ

［成績評価の方法］

テスト80%　レポート20%

［教科書］

志保田務編著『図書館概論』（樹村房　1998）

［参考文献］

海野敏・影浦峡・戸田慎一『学術情報と図書館』（雄山閣　1999）
志保田務『資料・メディア論』（学芸図書　2001）
志保田務・平井尊士編著『図書館と情報機器・特論』（第一法規　1999）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
現代健康論		通　期	4単位	永谷峯男

［講義概要・学習目標］

今日、不況といわれる日本だが、それでも私たちは「豊かさ」にドップリと浸かっているといえる。清潔さは類をみないうえに、電化・モータリーゼーションから、飢えに苦しむ国々をしり目に「飽食の時代」といわれて久しい。

しかし、生活習慣病（成人病）は、歩ける距離でも車、会って話すより携帯電話、階段よりエスカレーター、食べるのはレトルト、子供から大人までのストレスや心の健康と、いとまがない。最近のダイオキシン問題や環境ホルモンから、便利さが一番のこの世界一の長寿国は、どこへいくのか。

生命体としてのヒトが、生きる、そしてよりよく生き抜くための基本として求めるものが「健康」であろう。そして、人も社会も環境も健康でなければならないと考えるのは当然である。現実には、完全な「健康」はあり得ない。しかし、より良い方向を見い出さなければならない。

この講義では、からだの働きから、ライフスタイル、心の健康、健康と体力づくり、運動と栄養と休養、住・衣服を含む生活環境と健康管理、健康行政、自然環境などまで広く学生諸君と学習し、その問題点と方向性を考察したい。

［講義計画］

〈前期〉
1．健康の概念と意義
2．健康管理システム
3．心身の発育・発達と老化
4．ライフサイエンス
5．生体リズムと現代人の生活
6．ストレス社会と心の健康

〈後期〉
7．からだは健康的にはたらく
8．からだは動かすためにある
9．動かさなかったらどうなるか
10．健康と体力づくり
11．環境問題と健康
12．くすり・薬害・自然治癒

［成績評価の方法］

前期試験・後期試験および小テストなどにより成績評価する。

［教科書］

指定しない。必要に応じプリントを配布する。

［参考文献］

授業の進行で知らせる

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
スポーツ文化論		通　期	4単位	松浦道夫

［講義概要・学習目標］

まず、現代社会の特徴と体育・スポーツの発展、関係を概観します。そして背景の思想・精神・文化を知り、スポーツとの関連を考察します。とくに日米英の文化をスポーツを通して比較してみます。いいかえれば、スポーツ文化論を通して、集団としての人間、社会を理解することをねらっています。

［講義計画］

＜前期＞
Ⅰ．現代の体育・スポーツ
2．近代イギリススポーツと社交の精神
3．イギリスのギャンブル精神とスポーツ

＜後期＞
4．アメリカスポーツとメンバーチェンヂの思想
5．近代日本のスポーツと勝敗感
6．国際化と日本的スポーツの変化

［成績評価の方法］

適宜エッセイを課し、学年末テストと合わせて評価します。

［教科書］

［参考文献］

授業の進行に合わせて知らせます。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
運動生理学		通　期	4単位	松　浦　道　夫

［講義概要・学習目標］

まず、解剖学の基本的知識の上に、生理学的諸法則を学びます。次いで、運動生理学の基礎を知ってもらいます。文化系大学では、体育・スポーツ系以外で人間の生命現象を解明する科目はほとんどありません。ですから、社会や自然を理解する以上に、人体を通して人間を理解することも大切だと思います。少し難解かも知れませんが、運動生理学を学んで、個としての人間を理解して下さい。そして、それによって、現代社会を積極的にたくましく、よりよく生きるために応用して下さい。なお、この科目は、体育・スポーツ系のみならず、心理学・公衆衛生学・情報理論などの基礎分野でもあります。

［講義計画］

＜前期＞ １．細胞の意味と役割
２．細胞の活性化
３．骨の構造と機能
４．運動と骨
５．筋の構造と機能
６．運動と筋
７．運動の持続時間とエネルギーの供給
＜後期＞ ８．神経系の構造と機能
９．運動と情報伝達
１０．脳と感情発現
１１．自律神経とホルモン
１２．運動と全身持久力
１３．血液の成分と役割
１４．現代人の生活と健康

［成績評価の方法］

適宜、受講生にエッセイを課し、最終講義日のテストと合わせて評価します。

［参考文献］

授業の進行に合わせて知らせます。

［教科書］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
スポーツ科学		通　期	4 単位	＜前期＞ 今　西　俊　次 ＜後期＞ 高　　成　廣

［講義概要・学習目標］

スポーツ科学は人間そのものをあつかう総合科学であり、近年この分野の研究には著しいものがある。その成果は、たんに「強く・高く・速く」という、一握りのトップアスリートだけのものではない。健常者にとってはもちろんのこと、障害者や中・高年齢者にとっても有効なものである。
本講義では、スポーツが体力に与える影響と体力がスポーツに与える影響を考察し、合理的なトレーニングの方法について理解を深める。また、健康・体力の維持・向上を願うすべての人に、スポーツの新たな可能性を再発見してもらいたい。

［講義計画］

前期、第１回目の授業で説明します。

後期、第１回目の授業で説明します。

［成績評価の方法］

レポートと前・後期テストを合わせ、総合的に評価する。

［参考文献］

［教科書］

資料を配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
近代体育・スポーツ史		通　期	4単位	高　橋　ひ　と　み

［講義概要・学習目標］

現代社会において重要な生活文化として取り入れられているスポーツの歴史を、政治や経済・社会環境との関連から学習する。

特に、ルネッサンス以後の「近代スポーツ」を中心に、イギリス・ドイツ・フランス・スウェーデンなどの国において、スポーツが果たした多面的な役割について学習する。

今後、様々な様相を呈すると予想される「体育・スポーツ」の国際的動向を展望する上での基礎的な知識を得ることを目標とする。

［講義計画］

前期：ビデオを中心に古代・中世・近世の概要をつかむ

1. 古代の体育・スポーツ
   エジプト・ギリシャ・ローマ
2. 中世の体育・スポーツ
3. ルネッサンス時代の体育・スポーツ

後期：　4. 近代の体育・スポーツ
①ドイツ
②イギリス
③スウェーデン
④フランス
⑤アメリカ

［成績評価の方法］

定期試験・小試験およびビデオ鑑賞のコメントなどにより評価する。

［教科書］

高橋ひとみ（編著）　「近代体育・スポーツ史」　西日本法規出版

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
スポーツ社会学		通　期	4 単位	長谷川　修一郎

［講義概要・学習目標］

21 世紀を迎え 2002 年には、アジアで二国にまたがる日韓共同開催で初めてのワールドカップが行われる。また、2008 年開催地を決定するため IOC 理事会は大阪、パリー、北京、トロント、イスタンブールの 5 都市を公式立候補と認定し、今年にモスクワで IOC 総会を開催し、開催都市を決定する。

長野冬季オリンピックに続いて大阪オリンピックが実現できるか結果を待つしかない。一方、実業団バレーボールは、大阪地元のユニチカ（旧ニチボー貝塚）や日立が活動停止し、実業団バスケットボール、社会人野球、日本アイスホッケーリーグ等のアマチュアスポーツを支えた企業スポーツは崩壊の危機にある。一方、身障者スポーツ協会は(厚生省)、日本体育協会(文部省)に所属し、これまでリハビリテーションの一環としての身障者スポーツから競技スポーツとして位置づけられた。また、余暇時間の増大と高齢化社会にともなって、一般市民の健康や楽しみを目指したスポーツの社会的ニーズが高まっている。

今後のスポーツの課題として、スポーツの高度化と大衆化をいかにバランスよく発展させるかが今後の問題となろう。

［講義計画］

＜前期＞

序論

1、スポーツ社会学の必要
　：なぜスポーツ社会学を学ぶか

2、スポーツと文化
　：スポーツをどのようにとらえ、考えるか

3、スポーツの社会的システム

4、スポーツと組織
　：日本体育協会と身障スポーツ協会

5、スポーツ競技会
　：国体と身障者スポーツ大会

6、日本的スポーツ組織の歴史的、社会的性格

7、生涯スポーツとコミュニテイースポーツ

＜後期＞

8、スポーツと政治・行政

9、スポーツと経済

10、オリンピックの裏と表

11、ールドカップの裏表

12、本のスポーツ政策

13、スポーツのコマーシャル

14、スポーツの社会的問題点

15、高齢者スポーツの現状と問題点

［成績評価の方法］

単元ごとに小テストをすると共に前・後期の後に課題を科し、総合評価をする。

［教科書］

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
教育・心理学特講 （不登校といじめ問題）		後期	2単位	林　陸雄

［講義概要・学習目標］
「不登校」と「いじめ」の問題を手がかりに、時代・社会状況と青少年の心の在りよう、人間の本質について考えたい。受講者の自己理解を深める機会ともしたい。

毎回、ビデオ等の資料を手がかりにする。

［講義計画］

1. 子どもたちが直面している諸問題1
2. 子どもたちが直面している諸問題2
3. 子どもたちが直面している諸問題3
4. いじめとは1
5. いじめとは2
6. いじめとは3
7. 不登校とは1
8. 不登校とは2
9. 不登校とは3
10. 発達と成長、その援助の在り方1
11. 発達と成長、その援助の在り方2
12. 発達と成長、その援助の在り方3

［成績評価の方法］
2／3以上の出席状況と授業毎の小レポートならびに期末考査の結果を総合して行う。

［教科書］
使用しない

［参考文献］
授業内で、適宜紹介する。

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
体育・スポーツ学特講 （スポーツと健康）		通　期	4単位	長谷川　修一郎

［講義概要・学習目標］

21世紀を迎えて2002年には、アジアでしかも日韓の2国共同開催という初めてのワールドカップが行われる。また大阪市は、2008年の大阪オリンピック招致に向けて舞島・夢島を会場にすべく施設建設をはじめている。一方、生涯スポーツとしてレクリエーションスポーツや障害者スポーツの参加者は中高齢者が増加している。しかし、少子化による青少年のスポーツ参加は減少傾向にあり、体力の低下が顕著である。そこで、多様な講師を迎えて21世紀の体育・スポーツを語ってもらう。

［講義計画］

［成績評価の方法］

テーマ毎にクイズ及びレポートを課し、その内容で評価する。

［教科書］

［参考文献］

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
図書館通論		前期	２単位	西　田　文　男

［講義概要・学習目標］

図書館、図書館情報学のおおよそについて平易に概説する。まず、図書館は何をするところかを把握し、その果たす役割について考える。そこで情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。次に図書館を構成する要素を確かめる。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）→利用者（住民）の４点に分かれるが、本講義では、利用者（住民）および図書館システムに重点を置く。そこでは図書館サービスが追究の対象となる。各種の館種のうちここでは公共図書館を中心に論じる。まとめとして「図書館の自由」と図書館経営について論じ、図書館世界の将来、電子図書館やバーチャルライブラリーについて検討する。

図書館を構成する要素のうち最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。

［講義計画］

１．図書館とはなにか
２．図書館の果たす役割
３．情報の伝達と図書館.
４．社会、生涯学習と図書館
５．　図書館の構成要素
６．図書館の種類（館種）
７．公共図書館：理念
８．公共図書館の歴史と現代
９　公共図書館の利用者
１０．図書館の自由
１１．図書館経営
１２．まとめ

［成績評価の方法］

定期試験の成績によって評価する。

［教科書］

志保田　務編著「図書館概論」　（樹村房））

［参考文献］

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
図書館資料論		後期	２単位	西　田　文　男

［講義概要・学習目標］

図書館を構成する要素のうち、最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。

［講義計画］

１．図書館資料論
２．図書館資料の種類
３．資料の生産と流通
４．資料の選択
５．図書館の自由
６．電子資料、電子情報
７．ネットワーク
８．インターネット
９．著作権
１０．公貸権
１１．まとめ

［成績評価の方法］

定期試験の成績によって評価する。

［教科書］

志保田　務〔ほか〕編著
「資料メディア論：図書館資料論、専門資料論、資料特論」　学芸図書

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
図書及び図書館の歴史		後　期	2単位	上　田　格

[講義概要・学習目標]

人類の体外記憶媒体である図書は、依然として図書館資料の中心の位置をしめている。その図書の歴史的変遷をたどり最新の電子資料にいたる歩みを概説する。

次に、それら各種のメディアの保管・提供場所であった図書館が、一部特権階級の人たちの占有物であった時代から、広く一般大衆に開放されるまでの、思想的・制度的変遷の経緯をわかりやすく講義する。

[講義計画]

1. 記録の誕生と図書の歴史
2. 印刷の歴史
3. 非図書の出現
4. 古代の図書館
5. 中世の図書館
6. 近世の図書館
7. 近代図書館の先駆け
8. 近代公共図書館の誕生
9. 日本の近代図書館の歩み
10. 日本の近代図書館の歩み　続

[成績評価の方法]

定期試験（筆記）を行って評価する

[教科書]

『図書館の話』森　耕一著　*至誠堂*　（至誠堂選書）

[参考文献]

『図書館　その本質・歴史・思潮』増補版　岡田　温著　*丸善*
『近代図書館の歩み』森　耕一著　*至誠堂*
『図書館の歴史　アメリカ編』増訂版　川崎良孝著　*日本図書館協会*

＜９７～００生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
児童サービス論		前　期	2単位	清　水　昭　治

[講義概要・学習目標]

この科目は、図書館における"児童サービス論"です。図書館、特に、公共図書館では、中学生までのサービスを児童サービスと考えられており、赤ちゃん・幼児向きの絵本から、小学生・中学生までの巾広い本が準備されています。まず、この現実を学びます。少子化時代に入り、絶対数の子供の減少と共に、社会的事件の中での子供達が注目されています。子供達の成長にとって、読書がいかに必要か、その読書を支える児童サービスの重要性を考えます。生涯教育がさけばれる中で、図書館の必要性は、ますます増大します。その時、図書館利用が、習慣化されることは大切です。その習慣化の第一歩が図書館における児童サービスなのです。

[講義計画]

講義と共に、具体的に、実際に、多彩に出版されている子供の本を紹介しながら、又、「読みきかせ」などを通じて、子供の本を楽しみながら、講義をすすめます。

又、ビデオ・スライドなどを利用しながら、具体的な子供の図書館の姿を学びます。

[成績評価の方法]

レポート、又は、学年末試験に加えて、出席状況や平常成績とで、総合評価します。

[教科書]

[参考文献]

新参文献は、講義の中で、お知らせしますが、まずは、文献よりも実際の図書館の児童室、あるいは、児童コーナーを体験しておいてください。

はじめは、少し、躊躇しますが、一度、体験すれば、一般向の図書館と同じように利用できることと思います。

＜９７～００生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
専門資料論		前期	２単位	松永　俊男

［講義概要・学習目標］
人文科学、社会科学、自然科学の各分野の学問としての特徴、および各分野の文献の特徴と種類について解説する。

［講義計画］
1．学術文献とはなにか
2．分野の特徴と学術文献
3．学術雑誌の特徴
4．学術文献の歴史
5．雑誌 nature について
6．学術における不正
7．二次資料について
8．百科辞典について

［成績評価の方法］
平常点と最終テストを総合して評価する。

［参考文献］

［教科書］

＜９７～００生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
生涯学習概論	０１ ０２	前　期 後　期	２単位 ２単位	伊　藤　正　純

［講義概要・学習目標］

１９６０年代以降、ユネスコ等の国際機関で生涯教育・生涯学習が提唱されてきたのは、先進国では急速な技術革新と高齢化の進展によって成人に対する学習機会の提供が経済的・文化的に必要となり、後進国では貧困から脱出するために子どもだけでなく大人の学習も不可欠だという考えに基づく。本講義では、このような国際的動向を踏まえて、生涯学習大国・スウェーデンの成人教育制度（リカレント教育、教育休暇制度、学習サークル等）を紹介し、それとの対比で日本の「生涯学習社会」のあり方と現状（大学拡張＝エクステンション、大学開放、学校開放、自治体の生涯学習事業、市民大学等）を明らかにするつもりである。

［講義計画］

1．生涯学習とは何か
　ユネスコの生涯教育論、ＯＥＣＤのリカレント教育論
2．生涯学習の国・スウェーデンでの実験
　リカレント教育原理の考案、コミューン成人教育、国民高等学校
　高い成人学生の割合、学生ローン制度、教育休暇制度、成人教育奨学金制度、学習サークル
3．日本の「生涯学習社会」のあり方と現状
　(1)臨教審答申、生涯学習振興法
　(2)生涯学習機関としての大学
　(3)地方自治体の取り組み

［成績評価の方法］

司書および学芸員資格取得科目であるので、出席を重視する。毎回、授業の感想を書いてもらう。評価は８割をこの感想文で、２割を期末の試験で行う。なお、20分を超えた遅刻は認めない。

［参考文献］

1．黒沢惟昭編『苦悩する先進国の生涯学習』社会評論社
2．赤尾勝己『生涯学習概論』関西大学出版部
3．倉橋史郎・鈴木真理編『生涯学習の基礎』学文社

［教科書］

使用しない。

＜９７～００生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
図書館サービス論		前　期	２単位	上　田　格

［講義概要・学習目標］

図書館はサービス機関である。本講義では主として公立図書館における住民へのサービス活動を取りあげる。（ただし児童サービス、情報サービスは除く）
各サービスの意義・特質・方法および実践上の留意点を述べるとともに、現代の図書館が直面している諸課題についても言及する。

［講義計画］

1. 図書館サービスの理念と意義
2. 図書館サービスの計画と評価
3. 図書館サービス発展の軌跡
4. 図書館サービスの種類
5. 利用者対象別のサービス
6. 図書館サービスと著作権法
7. 図書館サービスのネットワーク
8. 図書館サービスと「自由」の問題
9. 図書館サービスと住民参加（ボランティアを含む）

なお　必要に応じて授業にビデオを上映するが、受講生はできるだけ複数の公立図書館を見学・利用することをお勧めする。

［成績評価の方法］

定期試験（筆記）を行って評価する。

［教科書］

『図書館サービス論』塩見　昇編著　*教育史料出版会*

［参考文献］

『公立図書館の任務と目標解説』増補版　*日本図書館協会*
『図書館はいま　白書・日本の図書館 1997』*日本図書館協会*
『われらの図書館』前川恒雄著　*筑摩書房*

《インテグレーション科目》

＜９７～００生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
資料特論		後期	２単位	松永　俊男

［講義概要・学習目標］
行政資料、郷土資料、および視聴覚資料に注目し、それぞれの特徴、収集、利用等について解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。

［講義計画］
１．はじめに
２．行政資料について
３．情報公開制度について
４．公文書館について
５．視聴覚資料について
６．ＣＤ－ＲＯＭの利用
７．郷土資料について
８．まとめ

［成績評価の方法］
講師それぞれの評価（テストまたはレポート）を総合して評価する。

［教科書］

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
図書館特論		前期	2単位	藤間　真

［講義概要・学習目標］
本講義は、本学図書館を題材として図書館について学ぶことを受講生に提供する。本学図書館という学生諸君に取って一番身近な図書館を例にとることによって図書館学で学んだ知識に具体的な肉付けをすることを目標とする。

［講義計画］
下記の項目に関して、それぞれ講義した上で本学図書館の施設を見学する。
☆図書館の入口
☆図書館のカウンター
☆OPAC
☆複写とその周辺
☆視聴覚メディア
☆データベースサービスと電子図書館
☆電動書架とエレベータ
☆発注とコンピュータシステム
☆目録とコンピュータシステム
☆ILLとコンピュータシステム
☆図書館管理とコンピュータ
☆コンピュータと保守管理

［成績評価の方法］
出席状況及び実習の成果物の提出により評価する。

［教科書］
志保田務・平井尊士　編著　図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用
第一法規

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
図書館学特講 （情報抽出の方法論）		9月集中	2単位	平井　尊士

［講義概要・学習目標］

図書館学と情報科学を融合させた図書館情報学に関する理論と技術について考察する。
図書館を取り巻く情報環境とコミュニケーション技術に関する諸問題を検討し、情報学に関わる知識・技術と、知識と情報の表現媒体である情報メディアを、どのように計算機を通して解決していくか具体的に演習を通して行う。

この授業の受講をはじめるには、第１回講義までに、次の条件を満たしておくこと。

●電子メールアドレスを取得しておくこと

［講義計画］

1．情報社会と図書館
2．情報学における知識
3．情報学に関わる記述
4．知識と情報の表現方法
5．情報メディアの利用（1）
6．情報メディアの利用（2）
7．課題テーマを通しての演習（1）
8．課題テーマを通しての演習（2）
9．課題作成（1）
10．課題作成（2）
11．まとめ

［成績評価の方法］

計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する

［教科書］

志保田務・平井尊士編著『図書館と情報機器・特論』（第一法規　2000）

［参考文献］

志保田務・平井尊士編著『情報活用術』（学芸図書　1999）
海野敏・影浦峡・戸田慎一『学術情報と図書館』（雄山閣　1999）
長尾真・安西祐一郎『マルチメディア情報学の基礎』（岩波書店　1999）

＜９７～００生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
博物館概論		後期	２単位	松永　俊男

［講義概要・学習目標］
学芸員資格課程の基幹科目である。最初の授業で、学芸員課程の諸科目で何を学ぶのか、この「概論」の目的はなにかについて、見取り図を提供する。
続く前半の講義では、さまざまな代表的な博物館について、映像資料を利用して理解を深める。
後半の授業では、博物館機能論など、博物館にかかわる諸問題を概観し、最後に現在の日本の博物館の課題について考察する。

［講義計画］
１．なにを学ぶのか
２．博物館の歴史
３．世界の代表的な博物館
４．日本の代表的な博物館
５．近畿の代表的な博物館
６．ユネスコ世界遺産
７．博物館の機能(1)
８．博物館の機能(2)
９．博物館の利用
１０．博物館の制度
１１．日本の博物館の現状と課題
１２．テスト

［成績評価の方法］
毎回、授業の最後に小テストを実施する。これと期末テストの結果を総合して評価する。５回以上欠席した者は、理由の如何を問わず除籍する。

［教科書］
広瀬隆人（編）『博物館学基礎資料』樹村房(2001年)

［参考文献］

＜９７～００生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
博物館学各論		通　期	４単位	水　口　薫

［講義概要・学習目標］

近年ミュージアム・マネージメントという研究活動領域が拡大している。生涯学習の必要性と相まって博物館への関心は高く、博物館でも教育・福祉・援助・環境保護などあらゆることにマネージメント感覚が求められている。
本講義では「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館情報論」を内容とする。
博物館機能の構成要因の一つである博物館経営、博物館資料の収集・保管・展示等についての基礎知識の習得、調査・研究、教育普及活動および情報の意義と活用方法についての理解を図る。適時ビデオ資料を使用する。

［講義計画］

（前期）「博物館経営論」
１　博物館の機能、組織、施設の基本的な考え方
「博物館資料論」
１　博物館資料の概念、収集、整理、保管、記録化
２　博物館資料の保存、展示（常設展示、企画展示）
３　資料調査、研究活動の意義と方法、基礎知識
（後期）「博物館経営論」
２　ミュージアム・マネージメント
３　教育普及活動、ワークシート、ミュージアム・グッズ
「博物館情報論」
１　博物館における情報の意義、提供について
２　情報データベース、インターネットの活用方法

［成績評価の方法］

出席を兼ねた小テスト（適時）とレポート、定期試験にて総合評価。前・後期とも欠席6回の者は名簿抹消。

［参考文献］

適時、プリントを配布。
その他、講義の時に提示する。

［教科書］

大堀　哲・小林達雄・端　信行・諸岡博熊（編）
『ミュージアム・マネージメント
博物館運営の方法と実践』（東京堂出版　1996年）
加藤有次・椎名仙卓（編）『博物館ハンドブック』
（雄山閣　1993年（3版））

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
東洋美術史		通期	4単位	林（リン） 宏作（コウサク）

［講義概要・学習目標］

美術の範疇はいたって広く、絵画、彫塑、建築、工芸など、凡そ空間ならびに視覚の美を表現する芸術すべてがその範疇に属するものである。

この講義では、先史時代を始め、殷、周、春秋、戦国、秦、漢、南北朝、隋、唐、宋、元、明、清など、時代を縦割りにして中国絵画史の継続性を究め、さらにそれぞれの時代を横割りにして広範な視野から中国絵画の全貌を眺めてみたい。

［講義計画］

1．中国絵画の流れ
2．中国絵画の特質
3．古代の絵画
4．唐宋の絵画
5．画院の画家
6．元四大家と文人画
7．明代の絵画

［成績評価の方法］

前期末及び後期末のテスト、レポート、出席状況に基づいて総合的に評価する。

［教科書］

［参考文献］

マイケル・サリバン　『中国美術史』　新潮社
王耀庭　『中国絵画のみかた』　二玄社

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
産業考古学		後期集中	4単位	並川宏彦

［講義概要・学習目標］

産業考古学は1955年に英国で生まれた新しい学問である。それは産業史や技術史、社会・経済史、地方史など周辺学問との学際的研究で展開され、文献研究だけではなく、産業遺跡・遺物そのものの調査・研究を重視し、それの文化財としての保存・記録を進める。

わが国が欧米の近代技術の導入を通じて産業の近代化にふみ出してから一世紀余りが経ち、この間の産業技術の発達はめざましいものがある。この過程で、当然のことながら生産品の変遷が進み、消えていった品々も多い。

歴史的、技術的、文化的価値のある工場や生産設備、機械器具、製品、図面、文書類など、それぞれの時代を担い、産業技術の発展に貢献した貴重な遺産である産業資料の収集・保存は重要な課題である。

産業考古学がどのような学問か、調査研究の対象と方法、産業遺跡・遺産保存の基準、日本の産業技術の発達などとともに、産業博物館について講義する。

［講義計画］

産業考古学の定義、調査研究の対象と方法、日本の産業考古学、遺跡や遺物の体系的保存、体系的保存のための基準、日本の産業技術の発達、産業考古学と保存運動、企業と産業遺跡・遺物の保存、文化財としての産業遺跡・遺物、日本の産業遺跡・遺物（水力発電所などエネルギー生産の跡、鉄や銅など金属材料生産の跡など）、産業考古学と産業技術史博物館（繊維機械および自動車とその生産技術）、そして近畿の産業博物館（近畿地域の主な産業博物館を取り上げ、その産業や技術の歴史の概要と博物館の展示内容や特徴）を述べる。

［成績評価の方法］

レポートの提出を課す。期末に試験をする。
試験の点数とレポートの評価で成績をつける。

［教科書］

［参考文献］

産業記念物調査研究会　「近畿の産業博物館」　阿吽社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
科学技術史		通期	４単位	松永　俊男

［講義概要・学習目標］

前期に西洋科学史の概略を講義し、後期に日本における西洋近代科学の受容について述べる。

西洋科学の源流は古代ギリシアにある。前期の講義では、まずギリシアで科学的精神が生まれた経過を探求し、ついでギリシア科学がイスラム文化圏で受け継がれ、発展した経過について述べる。前期の後半は、イスラム文化の導入により、やがてヨーロッパで科学革命が起こり、近代科学が発展していった経過を追う。

後期はまず、江戸時代中期からオランダ語、あるいは中国語を介して西洋の科学が日本に導入されていった経過を、特定の人物に焦点を当てて考えていく。後期の後半も、特定の人物に焦点を当てながら、幕末から明治初期にかけて、日本の近代化のなかで西洋科学がいかに導入されていったかを述べる。

［講義計画］

前期　１．古代ギリシアの科学
　　２．イスラムの科学
　　３．１７世紀の科学革命
　　４．１９世紀の科学
　　５．２０世紀の科学

後期　１．伊能忠敬
　　２．緒方洪庵
　　３．福沢諭吉
　　４．南方熊楠
　　５．野口英世

［成績評価の方法］

受講生は多くないと予想されるので、平常点のみで評価する予定。出席を重視するので、最初の授業を含めて前期に５回以上欠席した者は、理由の如何を問わず除籍する。

［教科書］

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
科学社会学		通　期	4 単位	後　藤　邦　夫

［講義概要・学習目標］

かつて、科学の研究は少数の研究者の個人的活動によって担われていたが、ある時期から多様な社会システムの活動の所産となった。そのなかで、研究者の集団の性格や行動に注目し、知識社会学の手法による「科学者集団の社会学的研究」が始まった。これが狭義の科学社会学であり、いわゆる知識社会学の系譜に属する。しかし、１９世紀末以来、国家や企業と科学技術との関連が重要になり科学者集団の性格も複雑になってきた。そして、科学技術の多様な社会的側面を扱う広義の科学社会学が成立する。この講義では「科学」と「技術」を一体のものとしてとらえ、ひろく「科学技術の社会的研究」として扱う。このような広義の科学社会学的研究の本格的な展開は、第二次大戦後、とくに１９７０年代以降である。核問題、環境問題等を通じて、科学技術の社会的意味が問われ、「科学的真理」や「技術進歩」に対しても根本的な検討が必要になったからである。それらの現代的トピックも出来るかぎり扱う。

［講義計画］

前期：科学社会学、すなわち科学技術の社会的研究の系譜と方法
１９３０年代のマートン、バナール、マルクーゼ、から今日の社会的構成主義にいたる研究の流れを追いながら、主な論点と方法を講義する。

後期：現代の科学技術の科学社会学的研究
主に、第二次大戦後のさまざまな話題を扱う。とくに、１９９０年代以降、冷戦の終結によって新たな課題が生まれてきた。それらの課題についても解説する予定である。

［成績評価の方法］

1）講義した内容についての試験を行う。
2）レポートを課し、その内容をも若干考慮する。

［教科書］

使用しない。必要に応じてプリント等を配布する。

［参考文献］

受講生に対して、授業中に指示する。
ただし、次のものは読んでおくことが望ましい。
トマス・クーン「科学革命の構造」（中山茂訳）みすず書房

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
産業技術論		後期集中	4単位	並川宏彦

[講義概要・学習目標]

技術は人間の活動＝生産的労働をより効果的に行うために工夫され、つくり出されたものである　それはつくり出した物、道具や機械などに物化しているが、道具や機械そのものではなく、それらによって測られる一つの概念であり、本来きわめて経済的社会的なものである。

人間のみが道具をつくり、それを使って色々な物を生産する。人間の歴史は道具の歴史、物づくりの歴史である。人間の存在が技術を考えていく基盤である。

科学・技術時代といわれる現在の経済社会をよく理解するためには、それを支え、規定する重要な要因の一つである技術の役割を正確に把握する必要がある。

この講義では、人類の起源と技術、生産過程と労働過程、技術の概念、科学の発展、科学と技術の関係、道具から機械へ、機械の概念、工場制度の成立、機械体系からオートメーションへ、戦後日本の技術革新、そして技術発達と現代社会との関わりについて述べる。

[講義計画]

第1章．人間の起源と技術（人間の存在が技術の基盤　人間の属性　物づくりが人間をつくるなど）、第2章．生産過程・労働過程（生産の自然的・社会的側面　労働過程の3要素）、第3章．技術の概念（学説の紹介　技術の定義）、第4章．科学の発展（科学とは　科学と労働　科学のはじまり　科学と技術　理学と工学の発展など）、第5章．技術の発展法則（技術の社会依存性と自律性　発展の根本要因など）、第6章．技術と生産様式（原始時代の技術から資本主義制発生期の技術まで）、第7章．機械と大工業（機械制大工業勃興期の技術　機械の概念　機械体系）、第8章．オートメーション（機械化の発展段階　オートメーションの特質、前提、技術史的意義）、第9章．戦後日本経済と技術革新（技術革新の展開過程　技術貿易　日本技術の特質）、第10章．生産技術と管理技術（近代的管理職能の発展　管理技術の特質など）を講義する。

[成績評価の方法]

レポートの提出を課す。期末に試験をする。
試験の点数とレポートの評価で成績をつける。

[参考文献]

最初の授業の日に、各章ごとの参考文献を示す。

[教科書]

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
工学概論		通期	4単位	坂本勇

[講義概要・学習目標]

現代の技術は広い領域におよぶ体系的なもので、大規模システムのもとにあり、最適性と現実について管理されているものの問題が生じている。構造の巨大化は予想をこえる性能と周囲との係りの関係に未知の部分を増やすことになる。設計の立場より知の位相について考える。

[講義計画]

1. 日本の技術教育
2. 人工システム
3. 設計と総合
4. 情報のフュージョン
5. 設計と文化

[成績評価の方法]

レポート

[参考文献]

開講時に指示する

[教科書]

なし

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
博物館学特講（自然史博物館について）		前期	２単位	松永　俊男

［講義概要・学習目標］

自然史、すなわちナチュラル・ヒストリーとは、動植物や鉱物の種類、性質、分布などを研究し、記載する研究分野のことで、「博物学」と訳されることも多い。自然史の領域では標本が研究の基礎となるので、標本を収集し、保存する自然史博物館が必須のものとなる。また、最近では自然環境に関する社会教育機関としても、自然史博物館が重視されるようになってきた。

この講義では、自然史博物館の歴史を学んだ後、世界と日本の代表的な自然史博物館について、映像資料を利用して理解を深め、最後に、日本の自然史博物館が抱えている諸問題について考察する。

［講義計画］

1．自然史とはなにか
2．自然史博物館の意義
3．自然史博物館の歴史
4．世界の自然史博物館
5．日本の自然史博物館
6．近畿の自然史博物館
7．日本の自然史博物館の現状と課題

［成績評価の方法］

平常点のみで評価する。

［教科書］

［参考文献］

松永俊男『博物学の欲望：リンネと時代精神』講談社現代新書（1992）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本文化史	０１ ０２	通　期 通　期	４単位 ４単位	横　井　　清

［講義概要・学習目標］

使用教科書の記述によりながら、日本文化の歴史を通観する。

［講義計画］

前期においては原始・古代～中世の文化史を追い、後期には近世　～近代を対象とする予定。

［成績評価の方法］

学年度末の筆記試験（試験期間内）による。

［教科書］

家永三郎著『日本文化史（第二版）』（岩波新書）毎時間必携。

［参考文献］

必要に応じて、随時、授業の中で紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
比較芸術学		通期	4単位	林（リン）　宏作（コウサク）

［講義概要・学習目標］

すべての観察は比較ということの上に成り立っている。比較するということは、その座標として、比較が行われるための一定のカテゴリーを前提とする。この講義では、エジプト、ギリシア、インド、東アジアなどにおける彫塑の特徴を概述し、比較芸術学の方法を明らかにしたい。

［講義計画］

1．比較芸術学の課題と研究領域
2．エジプトの彫刻
3．ギリシアの彫刻
4．ローマの彫刻
5．仏像に関する諸問題
6．彫刻の素材

［成績評価の方法］

前期末及び後期末のテスト、レポート、出席状況に基づいて総合的に評価する。

［教科書］

［参考文献］

『近代芸術学の成立と課題』　吉岡健二郎著、創文社
『芸術の世界』　井島　勉編、創文社
『原色　日本の美術』　小学館
『中国美術全集・彫塑編』　人民美術出版社

「基礎演習」クラス・研究テーマ一覧

ｸﾗｽ	担当者	研究テーマ	ﾍﾟｰｼﾞ
０１	荒木　英一	データから見る日本経済	164
０２	一ノ瀬　篤	世界の中の日本経済	164
０３	梅本　哲世	現代社会と経済	165
０４	桂　昭政	グローバル市場経済について	165
０５	木村　二郎	日本経済入門	166
０６	熊谷　次郎	現代の経済	166
０７	熊谷　次郎	現代の経済	167
０８	厳　善平	経済学入門	167
０９	芝村　篤樹	「現代」について考える	168
１０	芝村　篤樹	「現代」について考える	168
１１	庄谷　邦幸	日本経済に関する研究	168
１２	鈴木　健	経済学２５のＱ＆Ａ	169
１３	滝田　和夫	パソコンによる投資計画入門	169
１４	竹歳　一紀	経済を学ぶための基礎教養	170
１５	竹原　憲雄	入門日本経済	170
１６	津田　和夫	わが国経済の研究，特に金融制度とその改革	171
１７	野田　知彦	経済学の基礎	171
１８	濵田　博男	日本の企業発展史	172
１９	濵田　博男	日本の企業発展史	172
２０	藤岡　純一	政府開発援助について	172
２１	前田　治郎	時事問題の研究	173
２２	前田　徹生	現代の裁判・裁判制度	173
２３	松尾　純	経済学的思考方法を身につけよう	174
２４	ﾓｸﾞﾍﾞﾙ　ｻﾞﾌｧﾙ	世界経済の現状	174
２５	矢根　眞二	コミュニケーションで始める経済のＡＢＣ	175
２６	吉見　研次	法と経済学入門	175
２７	中村　勝之	巷でよく聞く「経済用語」の意味を考える	176

＜０１Ｅ生対象＞

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	01	通期	4単位	荒木英一

［演習概要・学習目標］

前期は、テキストの輪読などを通じて、日本経済のおおまかな様子と経済学の基本的な概念や考え方を学ぶ。後期は、いろいろな経済記事を輪読しながら疑問点をあげて一緒に考えていくことにする。余裕があれば、各自が興味を持つ記事について報告してもらう。

［演習計画］

前期：　テキストの輪読と講義

後期：　適当な経済記事の輪読（追ってコピーを配布）
　　各自の簡単な報告

［成績評価の方法］

出席を重視する。

［教科書］

適宜に指定する。

［参考文献］

＜０１Ｅ生対象＞

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	０２	通　期	４単位	一ノ瀬　　篤

［演習概要・学習目標］

以下の「英会話教材」の小冊子を読むことを通じて現在、世界の中で日本経済が置かれている位置や問題点を入門的に把握する。あわせて経済英語の基本単語習得など、英語の勉強も目標の半分を占めている。

この小冊子は２０章から成っており、各章は英文で１頁程度の短文である。内容を以下に示す。

1 Business Customs　2 Entering the Japanese Market
3 Foreign Hit Products　4 Mail-Order Companies
5 The Impact of the Aging Society　6 Business Styles
7 Deregulation　8 Competitiveness
9 Changes in Japanese Companies　10 The Future Outlook
11 Internet Commerce　12 The Effects of Deregulation
13 The Electronic Age　14 English Education in Japan
15 Foreign Investment in Japan
16 Japan:A Force in Asia　17 Legal Systems
18 Foreign Pressure　19 The Gangster Connection
20 Japan's Giant Trading Companies

［演習計画］

１年生を対象とする演習なので、高校での授業と大学の授業との中間形態を考えている。

受講者には、何らかの形で必ず毎回発言もしくは発表していただく。欠席が演習全回数の３割を超えると、単位はまず無いものと考えていただきたい。

［成績評価の方法］

期末試験を含め、年４度の試験を行う。この結果と日頃の発表や発言を総合的に勘案して最終評価とする。

［教科書］

Mark Ferris & Yoichi Shimemura,
A Changing Japan in the Global Economy, Sanshusha, 1998
（株式会社　三修社）

［参考文献］

日本経済新聞社編『Ｑ＆Ａ　日本経済100の常識』
（日本経済新聞社、２０００年）

＊この参考書は how to もの的な外観になっているが、程度はかなり高い。しかし、経済学部生としては必携である。

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基　礎　演　習	０３	通　期	４単位	梅　本　哲　世

［演習概要・学習目標］

経済学を学ぶ際に必要なのは、現実の経済事象にたいする生き生きとした関心である。今、日本と世界でどのような経済問題が起こっており、それをどのように理解し、どのようにしたら解決できるのか、という問題意識を常に持ち続けることが大切である。
この演習では以上のような趣旨を踏まえて、現在の日本経済で生起している様々な経済問題について具体的に学習していく。たとえば、世界経済と多国籍企業、家計、消費者問題、情報化、廃棄物問題などについて、テキストにそって一緒に考えていきたい。
この演習の目標は、いま新聞やテレビで報道されている経済問題について一応の理解ができる程度の基礎知識の習得である。授業は基本的にテキストを輪読する形で行うが、適時ビデオ教材も使用して具体的なイメージで経済を考えることができるようにしたい。

［演習計画］

【前期】
1.大競争時代の流通と消費者問題
2.成熟社会のもとでの高齢者問題
3.食品環境と食料危機
4.廃棄物とリサイクル
5.コンピュータと社会生活
6.新しい時代の到来と自動車
7.エネルギー問題と地球環境危機

【後期】
1.資本主義社会成立史
2.高度成長から「経済大国」へ
3.世界経済から地球経済へ
4.現代世界経済のしくみ
5.租税と国家財政
6.地方分権と地方財政
7.家計、賃金、労働

［成績評価の方法］

出席を重視し、演習での態度（報告・発言など）およびレポートなどにより総合的に評価する。

［教科書］

佐々木佳代編著『地球時代の経済学』（ミネルヴァ書房）

［参考文献］

演習中に適時指示する。

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	０４	通期	４単位	桂　昭政

［演習概要・学習目標］

我々の経済社会は、今大きな変革期に直面している。それはベルリンの壁崩壊以来加速的にこれまでの市場と政府がミックスした経済システムから、市場を中心とした経済システムに移行しつつあり、将来的にもそのような方向へと進んで行くであろうと考えられるからである。我々の身の回りで規制緩和、金融ビッグバン、あるいは大きな政府から小さな政府へといった動きは市場を中心とした経済システムへの動きの具体的な反映である。
この基礎ゼミではこれからの経済学の勉強の前提として我々の経済社会が大きくカーブを切ろうとしていることを熟知してもらい、今後の経済学の勉強にインセンティブ、ないし方向性を与えることができればと思っている。

［演習計画］

演習概要でふれたように我々の経済社会は今後、過酷なグローバルな市場経済社会に突き進んでいかざるを得ないが、まずその点について教科書で認識を深めるのがこの１年の目標である。さらにこれから経済学を勉強していく上で現実の経済の実態を知っておくことも不可欠であるのでパソコンを利用してグラフを作成し経済社会の現状の理解を深めていこうと思う。

［成績評価の方法］

出席、報告、レポートなどの総合評価

［教科書］

日本経済新聞社編『新資本主義が来た－２１世紀勝者の条件－』（日本経済新聞社）
総務庁統計局監修『統計でみる日本　２００１』（日本統計協会）

［参考文献］

適宜指示する。

＜０１Ｅ生対象＞

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
基 礎 演 習	０５	通 期	４単位	木　村　二　郎

［演習概要・学習目標］

2001年を迎え、日本経済は不良債権問題を払拭して自律的回復の道を歩むことができるのか。また、グローバリゼーションの流れの中における、産業と金融の大再編の行方はどうなるのか。激動する世界経済の中における現代の日本経済が直面している問題の本質は何か。その問題はどのような歴史の流れの中から発生し、今後どうなっていくのか。私たちを取り巻く経済の情況を自分の頭脳でキャッチして、その問題点を理解し、解決の方向を自分なりに考えることが、自立した自由人の基本的条件であるといえよう。

この基礎演習では、第1に、テキストを輪読しながら、日本経済がかかえるさまざまな現実の具体的な問題を学習する。交替にレジメ作成・報告を行い、それに基づいて全体で討論して認識を深める。この輪読を通じて、大学で経済学を学んでいく基本的方法を身につけ、経済を研究することの面白さを理解することを目標にする。

第2に、カレントなテーマを選択して、ディベート(討論)を班対抗で行う。このディベートでは、相手の意見に対抗して自分の見解を述べる訓練を通じて、討論する能力を養うと共に、さまざまな問題に対する認識を深めることを目標にする。

［演習計画］

テキスト各章（景気・経済成長・財政・金融改革・経済摩擦・産業構造・地球環境など）の輪読、ディベートを前後期を通じて行う。なお、夏休みには日本経済に関するレポートを提出するのが課題である。

［成績評価の方法］

出席は前提。演習に対する取り組みの積極性とレポートやテストなどを総合的に評価する。

［教科書］

日本経済新聞社編『ゼミナール日本経済入門』(2001年版)日本経済新聞社

［参考文献］

＜０１Ｅ生対象＞

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
基礎演習	０６	通 期	４単位	熊谷　次郎

［演習概要・学習目標］

目標は、現代の経済について学びながら、勉学の基礎となる知的訓練、知的好奇心を喚起することにある。勉強癖をつけよう（Oh! horrible）というわけである。具体的には、次のことを目指す。

（１）経済と経済学の基礎的知識を身につけること。これは、経済と経済学の世界で通用する基礎文法を身につけること、と言い換えてもよい。

（２）教科書を読んで（ここでは教科書だが、一般的に言えば、与えられたドキュメント・文書類、といってよい）、その内容を文章で簡潔にまとめ、あるいは口頭で発表する力をつけること。

（３）経済学の分野は広く深いので、そのなかで自分は何を専門とするかについての方向性を得ること。

以上の目的を達成するための一つの手掛かりとして、消費という観点から資本主義を見るとどういうことが言えるかを論じた下記の教科書を中心に勉強していく。参考文献のうち２つぐらいは読んでほしい。

［演習計画］

まず教科書の内容を正確に捉えることから始める。そのため、教科書の輪読をしたり、教科書に則した報告を順番にしてもらうことになる。その上で、みんなで質疑や討議を行って、理解を深めるとともに、自ら考え、それを表現する力を養っていきたいと考えている。

ちなみに、教科書の目次を掲げておく。

序　戦後日本の消費に関する通説と異説
第１章　欧米社会に見る消費の５つの類型
　第０類型　対面型・商業資本主義――女王の視線とアジアの物産
　第１類型　階級型・競争資本主義――トリクル・ダウンとフォード主義
　第２類型　操作型・産業資本主義――消費の民主化とマーケティング
　第３類型　記号型・脱産業資本主義――消費の記号化と個人的欲望
　第４類型　専門型・電子型資本主義――(専門・個別・過去)情報の流通
第２章　戦後日本が歩んだ消費の歴史
　１　敗戦から高度成長へ――アメリカ型と都市化の時代
　２　安定成長期(1972-80)――日本型消費社会への模索
　３　動乱期(1980-92)――消費の記号化と「買い手市場」の定着
　４　低迷期(1999-)――不安と消費の不況の時代
第３章　消費資本主義とは何か
　１　脱経済学としての消費資本主義論
　２　貨幣経済と過剰生産
　３　消費に対する「距離」と「欲望」
第４章　日本における消費はどこへ行くのか

［成績評価の方法］

出席、報告、レポートなどによる総合評価。

［教科書］

松原隆一郎『消費資本主義のゆくえ――コンビニからみた日本経済――』ちくま新書、２０００年

［参考文献］

佐伯啓思『「欲望」と資本主義』講談社現代新書、１９９３年
W. ゾンバルト著／金森誠也訳『恋愛と贅沢と資本主義』講談社学術文庫（２０００年）、または論創社（１９８７年）
R.メイソン著／鈴木信雄他訳『顕示的消費の経済学』名古屋大学出版会、２０００年
見田宗介『現代社会の理論――情報化・消費化社会の現在と未来――』岩波新書、１９９６年

＜０１Ｅ生対象＞

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
基礎演習	０７	通　期	４単位	熊谷　次郎

［演習概要・学習目標］

目標は、現代の経済について学びながら、勉学の基礎となる知的訓練、知的好奇心を喚起することにある。勉強癖をつけよう（Oh! horrible）というわけある。具体的には、次のことを目指す。

（１）経済と経済学の基礎的知識を身につけること。これは、経済と経済学の世界で通用する基礎文法を身につけること、と言い換えてもよい。

（２）教科書を読んで（ここでは教科書だが、一般的に言えば、与えられたドキュメント・文書類、といってよい）、その内容を文章で簡潔にまとめ、あるいは口頭で発表する力をつけること。

（３）経済学の分野は広く深いので、そのなかで自分は何を専門とするかについての方向性を得ること。

以上の目的を達成するための一つの手掛かりとして、市場と政府の関係を論じた下記の教科書を中心に勉強していく。参考文献のうち２つぐらいは読んでほしい。

［演習計画］

まず教科書の内容を正確に捉えることから始める。そのため、教科書の輪読をしたり、教科書に則した報告を順番にしてもらうことになる。その上で、みんなで質疑や討議を行って、理解を深めるとともに、自ら考え、それを表現する力を養っていきたいと考えている。

ちなみに、教科書の目次を掲げておく。

序　章　市場主義の来し方ゆく末
第１章　相対化の時代が始まった
第２章　進化するリベラリズム
第３章　日本型システムのアメリカ化は必要なのか
第４章　「第三の道」への歩み
第５章　グローバリゼーションの光と陰
あとがき

［成績評価の方法］

出席、報告、レポートなどによる総合評価。

［教科書］

佐和隆光『市場主義の終焉――日本経済をどうするのか――』岩波新書、２０００年

［参考文献］

宮本光晴『変貌する日本資本主義――市場原理を超えて――』ちくま新書、２０００年
金子勝『セーフティーネットの政治経済学』ちくま新書、１９９９年
金子勝『市場』岩波書店、１９９９年
間宮陽介『市場社会の思想史――「自由」をどう解釈するか――』中公新書、１９９９年
寺島実郎『国家の論理と企業の論理――現代認識と未来構想を求めて――』中公新書、１９９８年

＜０１Ｅ生対象＞

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
基礎演習	０８	通　期	４単位	厳　善　平

［演習概要・学習目標］

経済学とはどういう学問か。経済学部志望の受験生に聞くと、「モノやカネの動きを説明するもの」との答えが多かった。もちろん、経済学の内容は非常に豊富で、その扱う領域も遥かに幅広い。

この基礎演習の目的は、新聞やテレビでよく取り上げられる様々な経済問題を理解するための最小必要限の基礎知識を習得することである。また、必要に応じて、時事経済問題について新聞などを予め調べて貰い、グループ別の討論会・弁論会を学生の司会で行う予定である。

［演習計画］

１．各章の内容を予め全員に割り当てする。
２．当てられた人は担当する部分の内容をよく理解し、授業中それを説明する。他の人は議論に参加する。
３．現実の経済問題を取り上げ、経済学的な説明を試みる。
４．教員は質問などを答え、補足的な説明を行う。

［成績評価の方法］
必修であるため、出席状況にも配点する。出席３割＋発表の準備３割＋テスト４割

［教科書］
任開津典生『明快ミクロ経済学』2000年　日本評論社　2000円。

［参考文献］
授業中、随時配布する。

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	０９ １０	通　期 通　期	４単位 ４単位	芝　村　篤　樹

［演習概要・学習目標］

基礎演習の学習目標は、社会科学を学ぶ大学生として最低限度必要な態度、能力、知識を養うことである。それはまず、「今」という時代に疑問や批判意識（問題意識）をもつこと、その問題意識に従って活字情報（書物）を正確に読みとり、書き言葉、話し言葉のいずれにおいても、適切かつ個性的に発信できる能力を身につけることである。以上から演習として、①教材を使った報告、討論、②各自の選んだテーマに基づく報告、討論を行う。積極的に演習に参加する意欲がなければ、この時間はほとんど意味をなさない。

［演習計画］

①社会科学の基礎についての講義、②教材を使用した講読、報告、討論、③各自の選んだテーマに基づく報告、討論。①,②は前期,③は後期に実施し、適時レポートを課す。

［成績評価の方法］

出席、報告、討論とレポートの状況によって判定する。

［参考文献］

その都度指示する。

［教科書］

教材を配布する。

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	１１	通　期	４単位	庄　谷　邦　幸

［演習概要・学習目標］

日本経済の発展の軌跡，人口，国土，国家，食生活と第1次産業，第2次産業と空洞化 IT革命，サービス経済化，労働問題，金融と資本市場，国民生活 など経済の諸側面について学習する。それと同時に，日々の新聞を取りあげ解説・討論する予定である。

［演習計画］

［成績評価の方法］

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

［参考文献］

［教科書］

宮崎勇著『日本経済図説 第2版』（岩波新書）

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	１２	通　期	４単位	鈴　木　　健

［演習概要・学習目標］

わたしたちは、身の回りで生起する大量の政治・経済現象について、好むと好まざるとにかかわらず、判断を求められる。けれども、日々生起する政治・経済現象について、それを根本的にとらえることは必ずしも簡単なことではない。

この基礎演習は、経済学を初めて学ぶ一回生が、日本と世界で生起する政治・経済現象に深い関心をもち、諸現象のつながりとその「真相」を追い求めようとする探求心を身につけるために必要な訓練を行う場である。現代の日本と世界の政治・経済生活を考えるうえで参考となる書物をとりあげ、それを素材として報告し、報告にもとづいて討論し、報告者の見解と他の演習参加者との見解の相違を明らかにしつつ、事柄の「真相」に迫る思考の訓練を行う。

［演習計画］

・第１回、演習の進め方と年間計画の解説
・第２回、演習における報告の「模範演技」①
・第３回、演習における報告の「模範演技」②
・第４回
　～　演習参加者による報告と討論
・第26回

［成績評価の方法］

次の三つの評価の総合によって決定する。
・第一、出席日数。２／３以上の出席が義務。
・第二、報告を担当するさいの準備の中身、報告の内容、討論への参加の仕方。
・第三、他の報告者の報告を素材とする討論への参加の仕方。

［教科書］

・岸本重陳『経済のしくみ１００話』（岩波ジュニア新書）

［参考文献］

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	１３	通　期	４単位	滝　田　和　夫

［演習概要・学習目標］

この演習では、一方的な講義ではなく、学生諸君自身が主体的に演習に参加する一つの演習形式として、計算機センターの実習室において毎回パソコンを利用した授業を行う。諸君の中にはパソコンに十分習熟している人だけでなく、そうでないない人もいると思われるので、最初の数回はワープロ、表計算ソフトを用いて、簡単な作文や計算などを行い、初心者でもパソコンがある程度自在に使いこなせるようにしたい。その後、この演習のメイン・テーマである設備投資計画の実習を行っていく。設備投資計画をテーマに設定するのは、これがパソコンによる計算実習によく馴染むだけでなく、金儲けという具体的で生臭い問題を通じて経済理論の基本ロジックを修得できると思われるからである。したがって、演習の基本目標は経済理論の基本ロジックの修得にあるが、同時にそれを通じた「読み書き算盤」能力の育成にも力点を置きたい。

［演習計画］

最初のワープロ・表計算入門のあとはおおむねテキストに沿って進む。パソコンを利用する少人数の演習なので、宿題やレポートを通じてできるだけ双方向のものとしたい。

［成績評価の方法］

出席・レポートの総合評価となるであろう。実習なので毎回の出席と努力を最重視し、欠席・遅刻の多いものには単位を与えない。

［教科書］

千住鎮雄／伏見多美雄著　『設備投資計画法』　日科技連出版社

［参考文献］

柴川林也著　『新版　投資決定論』　同文館

＜０１Ｅ生対象＞

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	１４	通　期	４単位	竹　歳　一　紀

［演習概要・学習目標］

「経済を学ぶための基礎教養」を身につけることが目標である。そのために、以下のような内容を考えている。
１）「社会科」知識の再確認
２）簡単な数学知識の再確認
３）パソコンの初歩
４）インターネット利用心得
５）資料の探し方
６）経済用語の基礎知識
７）経済学ガイドマップ
８）経済学の考え方

［演習計画］

左記の１～５までを前期に、６～８を後期に行う予定であるが、それぞれの順序は必ずしも左記の通りではない。また、この他にも必要と思われることが出てきたら、適宜内容の追加・変更を行う。課題・レポートの提出、チェックテストなども適宜課す予定である。
講義中に課題を与えて答えてもらうなど、できるだけ一方通行の講義スタイルにならないよう努める。後期には、テキストあるいはレポートの報告を課すかもしれない。

［成績評価の方法］

出席、課題・レポートの提出、チェックテストの成績によって評価する

［教科書］

講義中に指示する

［参考文献］

＜０１Ｅ生対象＞

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	１５	通期	４単位	竹　原　憲　雄

［演習概要・学習目標］

最近１０年余りの日本経済について検討する。バブルや円高や不良債権といった一度は耳にしながらよくわからない経済問題を、もう少し正確に、順序立てて考えてみるためである。それはまた２１世紀の日本経済をよりよく知るためでもある。そこから経済をもっと身近に感じ、経済問題の理解の仕方を学んでもらいたい。
毎回報告者のレジュメをもとに進める。

［演習計画］

テキストを中心に内容の分担報告と討論。

［成績評価の方法］

出席状況、分担部分の報告および提出レポートによって総合評価する。

［教科書］

吉田　和男著『平成不況１０年史』ＰＨＰ研究所、１９９９年

［参考文献］

演習の中で紹介する。

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	１６	通　期	４単位	津田　和夫

［演習概要・学習目標］

テーマ：我が国経済の研究、特に金融制度とその改革

日本経済の現況を見つめながら、まず経済の基本や歴史を学ぶ。
そして、その過程で日常生活において遭遇する様々な経済問題について
疑問点や問題点を解きほぐし、理解を深める訓練をする。
特に我が国の金融制度と金融ﾋﾞｯｸﾞﾊﾞﾝ、財政問題などは重点的に扱う。

夏休みに自分の関心あるテーマを絞り、短い報告を書いてもらい、それに従って報告をしてもらう。自分の意見の提示、活発な討論は高く評価する。

［演習計画］

「前期」
教科書を読む。　新聞記事などにより時事問題も研究する。

「後期」
各自のﾃｰﾏの発表、討論を行う。

［成績評価の方法］

出席状況　　討論参加状況　　期末試験

［参考文献］

改訂「現代銀行論入門」（経済法令研究会）津田和夫著　1999年版
「日本の金融制度と銀行経営」桃山学院大学総合研究所紀要、24巻3号
1999年3月

「教科書」

日経大予測　２００１年版 日本経済新聞社　２０００年１０月

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	１７	通期	４単位	野田知彦

［演習概要・学習目標］

この基礎演習の目的は、経済学の基本的な考え方を身につけることである。具体的な題材としては、進学、就職、賃金、雇用、昇進、結婚などの生活に関わる身近な問題をとりあげる。これらの問題を経済学的に分析すればどのようなことがわかるのか、ということを経済学の基礎的な考え方から説き起こしていく。また、後期には、学生諸君自身の問題意識にもとづいてレポートを作成してもらうことにする。

［演習計画］

授業中に指示する。

［成績評価の方法］

報告、レポート

［参考文献］

［教科書］

「ライフサイクルの経済学」　橘木俊詔　筑摩新書
「パラサイト・シングルの時代」山田昌弘　筑摩新書

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	１８ １９	通　期 通　期	４単位 ４単位	濵　田　博　男

［演習概要・学習目標］

現代資本主義社会の重要な経済単位である企業（＝会社）の仕組みや活動の変遷を勉強することをつうじて、現実の日本経済や世界経済の動きについての理解と関心を深めるようにしたいと考えています

ゼミナールでは、テキストの各章を各自分担して報告・討論して貰います。そのさい報告者には簡単なレジュメ（内容の要点と意見をまとめたもの）を用意して貰います。

そのほか、そのときどきの新聞記事などを材料にして、重要と思われる問題について解説することも予定しています

［演習計画］

（前期）

１．プロローグ
２．戦後改革－日本的経営のみなもと－
３．混乱から復興へ
４．産業政策の果たした役割
５．財閥から企業集団へ
６．間接金融方式の定着
７．産業構造の変化とリストラクチャリング

（後期）

８．技術革新
９．中小企業のダイナミズム
１０．日本的労使関係の成立
１１．マーケティングの導入と流通革新
１２．経営理念
１３．戦後の総決算としての円高構造調整
１４．グローバル時代へ

［成績評価の方法］

出席状況ならびにゼミナールでの報告・討論への積極的な姿勢を重視します。

年２回のテストの成績とあわせて総合的に評価します。

［教科書］

下川浩一（著）『日本の企業発展史』（講談社／現代新書）

［参考文献］

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	２０	通期	４単位	藤　岡　純　一

［演習概要・学習目標］

ＯＤＡ（政府開発援助）について勉強する。

ＯＤＡとは、政府の発展途上国への援助のことである。日本政府は、中国やインドネシアをはじめ、多くの東南アジア諸国に援助を行ってきた。

援助した資金は、アルミの精錬や製鉄所のプロジェクトに使われ、また、道路、港湾、空港、ダムなどの建設に使われてきた。

しかし、日本はアフリカなどの最貧国にはあまり援助していない。また、教育や医療・保健のための援助をあまりしてこなかった。

なぜだろうか？

日本の援助の多くは、日本企業の海外進出を支援するためのものであったのではなかろうか？

その結果、東南アジアで、南米で、なにが起こっているのだろうか？

この演習では、テキストを読みながら、このようなことを考える。

［演習計画］

テキストの目次は以下の通り。

１．援助――その多面的な顔
２．霞のなかのＯＤＡ
３．何が行われているか
(1)消える熱帯林、追われるインディオ－大カラジャス計画(ﾌﾞﾗｼﾞﾙ)
(2)行き先のない強制移住－ナルマダ渓谷ダム計画(ｲﾝﾄﾞ)
(3)なぜ融資を止められないのか－ｸﾄﾞｳﾝ･ｵﾝﾎﾞ･ﾀﾞﾑ(ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ)
４．受け入れ側の事情
５．誰のための援助か
６．新しい発想、多様な試み

毎回、担当者を決め、レジメを作ってきてもらう。

毎回、全員が何かの発言をしよう。質問でも、意見でも。

［成績評価の方法］

平常点とレポート

［教科書］

鷲見一夫『ＯＤＡ援助の現実』岩波書店、1989年。

［参考文献］

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	２１	通 期	４単位	前 田 治 郎

［演習概要・学習目標］
この演習では、各自が設定したテーマを一年間追い続けてもらいます。それを通じて、資料の探索、収集、整理、論点の報告・発表などの作業を体得することが、学習目標です。ちなみに、これまでの参加者が取り上げたテーマには、地球温暖化、ダイオキシン、動植物などの環境問題、脳死と臓器移植、尊厳死、学級崩壊、いじめ、少年犯罪、裁判制度、介護保険、障害者問題、日韓関係、原子力発電、放射能などがありました。１年後に、自分の得意な分野で一家言持つまでになっていれば、目標達成です。

［演習計画］
1．各人のテーマ設定
2．資料収集の研修--図書館、インターネット
3．書籍、新聞記事その他を素材とする教室での報告と討論（反復）
4．最後にレポートの作成

［成績評価の方法］
出席などの平常評価と最後に作成するレポートを総合判断する。

［教科書］

［参考文献］

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	２２	通　期	４単位	前田徹生

［演習概要・学習目標］

基礎演習においては、大学で勉学するための基礎的な素養、討論、ノートの取り方、原稿の書き方、報告やレポートの書き方、文献検索・収集の方法、図書館の利用法、テーマについての報告･討論といったことを中心に進めていくこととる。

［演習計画］

1）ゼミ・ゼミ・ガイダンス
2）ディベート
3）ディベート
4）ディベート
5）ディベート
6）ディベート
7）ノートの取り方
8）ノートの取り方
9）研究テーマの見つけ方と文献収集の方法
１０）文献探索ガイダンス
１１）原稿の書き方（1）
１２）原稿の書き方（2）
１３）原稿の書き方（3）
１４）報告／討論
１５）報告／討論
１６）報告／討論
１７）報告／討論
１８）報告／討論
１９）報告／討論
２０）報告／ 討論

［成績評価の方法］

出席すること，報告を行うこと，レポートの提出。

［教科書］

特になし.

［参考文献］

演習の中で必要に応じて提示する。

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基　礎　演　習	２３	通　期	４単位	松尾　純

［演習概要・学習目標］

この「基礎演習」は、これから４年間経済学部に籍をおくことになったみなさんが基本的に身につけておくべき経済学的なものの見方・考え方・表現の仕方を、最も基礎的なレベルでトレーニングする場です。この目的、いいかえれば経済学部生の”行儀作法”のようなものを修得するために、本演習では２つのことを行います。

①指定したテキストを使用して経済学の基礎理論を、互いに疑問を出し合ってわいわいがやがや話し合いながら一つ一つ理解し解決しながら勉強していきます。具体的にはテキストを輪読方式（具体的にどうするかは授業のときに説明する）で読み進んでいきます。したがってこれは、みなさんの多くが履修登録するであろう経済学基礎理論Ｂの補習授業のようなものです。

②新聞や雑誌の（経済）記事の中から諸君が関心あるものを選んで報告してもらい、それについて率直な討論してもらいます。これは、日頃のさまざまな社会現象に対する経済学的な見方、考え方を養うためのものです。活発な議論を期待します。

［演習計画］

左記の①②を授業時間を前半と後半に分けて行います。前半では①を、後半では②を行います。

［成績評価の方法］

出席回数３分の２以上（単位取得の絶対必要条件）と、報告内容・討論への参加（寄与）などを総合判断して評価する。（厳しそうですが、実態は出席さえ或る程度こまめにしておけば、単位取得は自動的である、ということです。

［教科書］

鶴田満彦編『入門経済学　〔新版〕』有斐閣新書、1990年発行、900円

［参考文献］

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	２４	通　期	４単位	モグベル　ザファル

［演習概要・学習目標］

この基礎演習の学習目的は、経済学部生として必要な問題意識・表現法・各種ツールの活用法などのトレーニングを行うとともに、経済学の基礎的知識を身につけることです。「世界経済の現状」を演習の主要テーマとして、とりわけ「経済のグローバル化」および「アジア経済の中の日本」というサブテーマに焦点を当てながら経済学の基礎を学んで行きます。付随的目標として、

① 目を世界に向けて、特にアジア諸国に親しみを持つこと、
② 経済発展のプロセスについて考えること、
③ 経済のグローバル化と相互依存について実感を持つこと、などとします。

［演習計画］

＜ 前期 ＞　世界経済総論：
テキストの輪読・新聞の講読を通じて世界経済の現状について学習します。

＜ 後期 ＞
後期は演習参加者の報告を中心に授業を行います。各人、世界各国の中から一つの国・地域・国際機関を選び、その経済・社会・政治情勢、もしは国際機関の役割や課題などについて報告を求めます。

［成績評価の方法］

出席・小試験・授業中の報告をベースに総合的に評価します。

［教科書］

平成１２年版通商白書（総論編）「グローバル経済と日本の針路」

［参考文献］

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	２５	通期	４単位	矢根　真二

［演習概要・学習目標］

テーマは**「コミュニケーションで始める経済のＡＢＣ」**です。人生を愉快に過ごすには上手なコミュニケーションが必要です。自分の考えをうまく相手に伝え，相手の考えをできるだけ正確に理解できれば，家庭でも学校でも，遊びでも仕事でも，もっと楽しく快適にエンジョイできるはずです。

ところが話す練習なんてしたことのない人が大半ですから，いざ人前で話すことになると苦になるのは当然です。このままでは，今後ますます重要になる面接・交渉・会議などでうまく発言するのも難しいでしょう。友人との会話のように，もともと対話は相互の理解と知識を高める効率的な手段ですから，経済学の初心者同士，コミュニケーションの練習を兼ねて経済のＡＢＣを学び合おうというわけです。

学習したことがなければ分からないのは当然ですし，最初の経験で成功することは希です。ですから大学生活で大切なのは，今までの経験や実力よりも，将来自分がどうなりたいかという意欲の強さと目標の明確さ，そしてそのためには一時の恥や失敗など気にしないという前向きな精神です。

実際，各種プログラムの選定・割当から進行に至るまで，学生同士のコミュニケーションで運営できるようになることが最終目標ですが，最初からそんなにうまくはいきません。だからこそ，経済学の知識を机上の空論に終わらせず，何事にも創意工夫でトライしようとする企業家精神を期待しています。

［演習計画］

①入門情報リテラシー：「読み・書き・算盤」は今も昔もコミュニケーション能力の基本ですが，PC（パソコン）が普及した今日では情報リテラシーと呼び名も変わっています。演習でも報告内容を各自のＨＰにアップしてもらうので，最初に基本的な操作を復習します。技術に強いのは若者の特権ですが，苦手な人は進んで**パソコン利用や情報処理の科目**を同時に履修しましょう。

②テキストの輪読：同じ本を読んでも人によって解釈や疑問は異なります。そこで同じ本を読んで疑問点を出し合って話し合うことで，互いに理解力を高めるのが目的です。読書経験の浅い人が多いことを考慮して，初心者でも泳みやすい**ビジネス文庫**を使い，意見交換をしやすくしているのが特徴です。

③仮想株式ゲーム：ネット上で仮想的な株式売買を行い，資産運用力を競います。市場の動きを体感し，多くの企業を知ることを通じて，情報収集と意思決定の重要性を学び，論理的な説明力をつけることが目的です。

④ディベートゲーム：日頃よく耳にする話題から関心のあるトピックを選び，賛成派・反対派に分かれて討論します。いろいろな論理・価値観・考え方を学ぶと共に，相手をうまく説得する技術を高めることが目的です。

その他，新しい商品やサービスを発案・企画する**新商品企画**，新聞記事を要約する**ニュースレポート**，基礎的な作文の練習をする**800字の自己主張**など，詳細は下記の教員ＨＰを参照して下さい。

［成績評価の方法］

各種プログラムに関する自己評価シートをベースに評価します。

［教科書］

斉藤精一郎・他（2000）『大学教授の株ゲーム』日経ビジネス文庫　648円
三和総合研究所（2000）『30語で分かる日本経済』日経ビジネス文庫 648円

［参考文献］

●情報伝達にPCやネットの利用は不可欠ですから，苦手な人は，**コンピューター利用や情報処理関連の授業**を積極的に履修しましょう。履修できない人は，計算機センターのガイドブックを自習するといいでしょう。
●情報発信の基本は書くことですから，文章を書くのが苦手な人は**論述指導**を履修するか，書店の就職コーナーの小論文・作文の手引きで学びましょう。
●やさしいビジネス文庫でも随所に現代経済学の常識が出てきますから，**経済学基礎理論Ａ**（Ｂでなければどの講義でもＯＫ）を履修するか，マンキュー『経済学Ｉ：ミクロ篇』東洋経済新報社　などの入門書が役立つでしょう。
●その他詳細な情報は，**教員ＨＰ（http://rio.andrew.ac.jp/~yane/)**を利用して下さい。

＜０１Ｅ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	２６	通　期	４単位	吉　見　研　次

［演習概要・学習目標］

この演習は、主に受講生が分担して下記テキストの紹介報告を行うという方式で運営される。内容的には、「法と経済学」と呼ばれる比較的新しい学問分野の基礎を理解することが、主たる学習目標となる。なお、法にかんする知識の部分は原則として担当教員の方で解説するので、受講生はその経済学的分析の理解に努力してもらいたい。

演習形式の授業においては、口頭発表等、学生諸君自身の能動的な授業参加が不可欠である。小論文やレポートを書く作業も課すので、積極的に取り組んでもらいたい。

［演習計画］

毎回、数名の学生にテキストの内容を順次紹介報告してもらう。小論文の書き方を指導したうえで、実際に書く作業をしてもらうこともある。夏休み中または秋以降の課題として、複数の文献資料を読んだうえでレポートを書いてもらうこととしたい（レポートのテーマは各自が自由に選択する）。後期の途中から、毎回、数名の学生に各自のレポートの概要を口頭で発表してもらう予定である。余裕があれば討論の時間等も設けたいと考えている。

［成績評価の方法］

出席状況、報告やレポートの内容等を総合的に判断して評価する。

［教科書］

小林秀之・神田秀樹『「法と経済学」入門』（弘文堂）

［参考文献］

授業時間中に適宜紹介する。

<＠01E生対象>

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
基礎演習	27	通期	4単位	中村勝之

[演習概要・学習目標]

高校時代に「政治・経済」を学習した学生諸氏がいるだろうが、そのほとんどが政治に関する話であり、「経済」に関わる議論が極端に少ない場合が多く見受けられる。その一方で連日のようにマスコミから経済に関する議論が流される。そのためか、「聞いたことはあるんだけどなぁ」という言葉が多い割に、その意味について問いかけると、「ん～…わかんな～い」と反応するのがたいていの経済学部生の初期段階である。別にこのこと自体は問題ではないが、マスコミのような第3者から与えられる情報を「鵜呑み」にすることの方が問題である。

そこでこの演習では、「聞いたことはあるけど、意味が分からない」経済関連の言葉、そしてそこから浮かび上がってくる「常識めいた」意味について、丹念に考えていきたい。この「考える」という作業を通じて初めて、己を知り、己の今後の生活に役立つはずである。

[演習計画]

教科書の各章を担当者ごとに振り分け、担当者はその内容について発表してもらう。そしてそれ以外のものは、各章に関する疑問をぶつけて議論し合う。読み終えたら、それをレポートにまとめる、という作業を年間通して行っていく。

[成績評価の方法]

「演習」というタイトルがつく限り、学生の積極性（出席・発表内容・議論に対する参加姿勢・レポート）を重視する。

[教科書]

この演習では経済用語に関する文献をみんなで読んでいく。最初に
佐藤俊樹『**不平等社会日本**』(中公新書 1537)
を読んでいく。その後は、みんなと相談して決める。

[参考文献]

適宜示していく。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済学基礎理論Ａ（旧経済学基礎講義）	01	通期	4単位	荒木英一

[講義概要・学習目標]

いくつかのテーマをとりあげて、経済学の専門用語と基本的な考え方を学習していく。テキストにはいくぶん高度な内容も含まれるが、経済白書や日々の経済記事を理解する為には、この種の入門書をマスターしておくことが近道だろう。

[講義計画]

前期：　国民所得統計
　　ＧＮＰの決定
　　資産市場
　　ＩＳ／ＬＭモデル

後期：　オープン・エコノミー
　　失業とインフレーション
　　消費・貯蓄と投資
　　景気循環と経済成長

[成績評価の方法]

授業中の小テストと出席点、学年末試験で総合評価する。

[教科書]

開講時に指定します。

[参考文献]

適宜に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学基礎理論Ａ （旧経済学基礎講義）	０２	通　期	４単位	モグベル　ザファル

[講義概要・学習目標]

この講義は、経済学を学ぼうとする学生のための近代経済学入門講義として、経済学の基本的な考え方や分析手法を紹介するものである。

さて、ここで経済に関する身近な問題を一つ出して見よう。

外国の大学の場合、在学期間に関する規定が緩やかなため三年や三年半で卒業する学生がかなり多い。しかし、現在の日本の制度では四年で卒業するのが最短距離である。そこで、不幸にも四年で卒業できず留年したとしよう。一年間の留年で学生の支払わなければならないコストはいくらだろうか？単純に考えると、それは一年間の学費とその他もろもろの費用の合計であろう。しかし、コストはそれだけですむのであろうか。経済学の根底には「機会費用」という概念がある。それによれば、「A」という活動（就学）に従事するために支払わなければならないコストには「B」という活動（就職）を断念することによって失われるもの（所得）も含まれるのである。それで留年のコストは一気に上昇する。でも、ここでいう「失われた所得」は初任給の額を当てるべきなのか、それとも留年で定年が早まると考えて、定年前の最終給与を当てるべきなのか。この「ミクロ」の問題の背景には意外な広がりがあるのである。「マクロ」に目を転じて、社会全体が被るコストについて考えて見てもおもしろい。視点を少し変えて、「規制緩和」によって「在学期間四年」というルールを外国なみに緩和したらどうなるだろうか。日本経済全体の「豊かさ」や「効率」、「資源配分」や「人的資源の開発」にどう影響するであろうか。では、この続きは授業で。

[講義計画]

Ｉ．総論
（１）経済学というのはどのような学問なのか
（２）世界経済の現状
（３）日本経済の現状
ＩＩ．　需要と供給の織りなす世界
ＩＩＩ．マクロ経済学と経済政策
ＩＶ．　ミクロ経済学と個人や企業の行動
Ｖ．　外国貿易が提供するもの

[成績評価の方法]

小テスト、学年末試験で総合評価する。

[教科書]

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

[参考文献]

J.スティグリッツ（著）「入門経済学：マクロ経済学、ミクロ経済学」（東洋経済）
伊藤元重（著）「入門経済学」（日本評論社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学基礎理論Ａ　（旧経済学基礎講義）	０３	通期	４単位	矢根　真二

[講義概要・学習目標]

経済活動はきわめて身近な現象です。自動販売機でウーロン茶を買うのも経済学の分析対象です。ウーロン茶の満足感が投入したコインの費用を上回る人だけが購入すると考えるのです。すると，バイトに精を出すのもデートに出かけるのも，いずれもウーロン茶の問題と同じように考えることができます。

このように簡単な**モデル**（模型となる見方）によって，本当は複雑で多様な現実を簡単に理解しようというのが現代経済学の特徴です。ナマケ者にはピッタリだと思うのですが，実はこれが科学に共通する基本的な方法なのです。

ですから「**科学としての経済学**」の基礎を学習する基礎理論Ａの目標は，現代の複雑で多様な経済現象を簡単に捉えられる**基本モデル**を修得することです。基本モデルは万国共通ですから，テキストには世界有数のエコノミストによるやさしい入門書を用います。この入門レベルのモデルを修得するだけでも，株式先物やデリバティブといった経済関連の話はもとより，ドラッグ密売・売春から環境汚染・少子化問題に至るような話に関わるエコノミストの常識を理解できるようになります。モデル思考は非常に便利で経済的なのです！

ただ，科学としてのモデル思考に慣れるには，たんに丸暗記するだけではダメで，現実を抽象化して論理的に考える習慣が必要です。実際，基本モデルの多くは簡単なグラフや中学程度の数式で表現されますから，未だに文系に数学は不要と考えているようでは時代遅れです。企画や経理はもとより人事や営業でも。プロになるには数字に強くなる必要があります。

もっとも忘れてしまったものは仕方ありませんから，講義では中学程度の知識も必要に応じてすべて解説しますから，不安になる必要はありません。

[講義計画]

大きな書店に行けば分かるように，**科学としての現代経済学**は**ミクロ経済学**（経済原論IA-1）と**マクロ経済学**（経済原論IA-2）に分かれ，公務員などの各種試験の受験科目にもなっています。そこで基礎理論Ａでは，両者の基礎になる**現代経済学の（テキストの10大原理に相当する）常識**を学習します。

現代経済学は，その基本的な考え方と構成を大胆に要約すると，

①複雑で多様な経済現象を理解するのに簡単なモデルを作って考える
②「企業⇒産業⇒日本⇒世界」といった多様な問題を理解するのにも，各段階で作ったモデルを組み合わせた複合モデルを使って考える

となり，様々なモデルをまるでブロックのように積み重ねて作られています。

そこで基礎理論Ａでは，基本的なブロックとして多用される個人と社会の見方，つまり**主体と市場の基本モデル**，もっと簡単に言い直すと，

①あなたや私，つまり消費者や生産者といったすべての**個人の行動の見方**
②こうした個人の行動を総計したらどうなるかという**市場の見方**

の解説に重点を置きます。まさに世の中を見る基本を学ぶわけです。

この２つのモデルは長い時間をかけて洗練されてきた最も基本的な道具ですが，今日では**景気の見方**や**政府の見方**も重要です。さらに最近では軍拡競争や広告戦争のようにかけひきを伴う**ライバルの見方**や，ギャンブルから保険に至る**不確実な将来の見方**など，次々に新しい基本的なモデルが開発され，財政・金融・国際経済等の様々な分野で実際に利用されています。

時間をかけてモデル思考と基本モデルを重点的に解説する一方，時間の許す範囲で新しいファッションになりつつある基本モデルも解説する予定です。

[成績評価の方法]

●試験の合計点が６割以上を合格とする予定。

[教科書]

●マンキュー(2000)『経済学Ｉ ミクロ篇』東洋経済新報社
世界中で使われ，講義で学習する主要な概念も分かりやすく説明されています

[参考文献]

●現代経済学の基本モデルは，現代の主要な経済・経営現象だけでなく，教育・社会・法律・政治問題を読み解く鍵としても使われています。講義内容と参考文献の詳細は**教員ＨＰ（http://rio.andrew.ac.jp/~yane/)**を参照して下さい。
●中学程度のグラフや数式も講義で説明しますが，それでも強いアレルギーが出る自信？のある人でも，図書館などでドウリング『例題で学ぶ：入門・経済数学　上』シーエービー出版　の第１章・２章を読めば十分です。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学基礎理論A （旧経済学基礎講義）	04	通　期	4単位	中村勝之

[講義概要・学習目標]

今あなたが自販機の前にいるとする。そして自販機にお金を投入してボタンを押す。そして取出口から出てきた商品を受け取る。自販機に投入されたお金はどうなるか？それは業者がお金を回収し、集めたお金は従業員に対しての給料や製造コストなどで支出される。こうして考えてみると、経済学とは「商品とお金の流れを学習する分野」だといえなくもない。しかしよく考えてみると、なぜあなたは自販機でお金を投入しボタンを押したのか？お金を回収する人はなぜそこで働いているのか？そこには何らかの理由（価値観といってもいい）があるはずであり、人々はそれに基づいた行動をとるはずである。このように何らかの理由（価値観）にそった行動（の選択）を「意思決定」といっているが、経済学とはまさに、「人々の意思決定」を研究する分野なのである。そこでこの講義では、「人々の意思決定」をどのように考えていけばいいのか、それに関する基本的な議論を解説していく。

ところで一見複雑に見える議論をわかりやすく説明しようと思えば、重要と思われるところだけを抽出して描きなおす必要がある。経済学においてはこの抽出、描きなおし（再構築）の作業にあたって「数学」を利用する。しかしながら数学を使うといっても、「計算がどうのこうの…」とは言わず、その数式が何を言おうとしているのか、その「意味」を考えるようにしていきたい。

[講義計画]

まず前期の初めのほうで、年間を通じて利用される数学について解説する。その後「マクロ経済学」とよばれる分野を解説する。後期は「ミクロ経済学」とよばれる分野について解説していく。詳細については、第1回講義時に提示する予定である。

[成績評価の方法]

年間通じて7～8回の「小テスト」を行い、それと「期末試験」の成績を総合評価する。

[教科書]

使わない。適宜資料を配布する。

[参考文献]

具体的な文献に関しては講義中に適宜提示していくが、新世社から出ているテキストが比較的わかりやすい。自分にあったテキストを選んでいただきたい。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学基礎理論B （旧経済学基礎講義）	01	通　期	4単位	阿部秀二郎

[講義概要・学習目標]

私達が暮らしている社会のことを「市場経済」とか「資本主義社会」などと表現したりします。それらのことばを説明するには「市場」・「資本」の意味を知らなければなりません。そして「市場」・「資本」を説明するためには、「商品（サービス）」・「貨幣」とは何かを知らなければなりません。さて、星の移動を観察した時に、どうして地球が動いていると思えたでしょうか？われわれは当然と考えていることの背後には、よく考えなければ見えない関係があることを認識しておく必要があります。

本講義では、ゆっくりと経済学の基礎的な用語と関係とを見てゆくことにします。

[講義計画]

「商品」　「貨幣」　「資本」

[成績評価の方法]

試験の結果によって評価します。加点などの措置が必要であるか否かは講義の中で確認していきます。

[教科書]

田中菊次、他（著）『現在の経済原論』（創風社）

[参考文献]

カール・マルクス著『資本論』

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学基礎理論B（旧経済学基礎講義）	02	通期	4単位	松尾　純

［講義概要・学習目標］

この講義は、資本主義市場経済の最も基礎的な仕組みと概念を理解してもらうことを目的とします。資本主義経済の基礎的仕組み・概念を理解するためには、これをたんに「経済的に」見るだけでは十分ではありません。この経済社会を成り立たせている政治的・社会的・制度的な諸側面をも含めむ全体を分析しなければなりません。そのため、本講義では、経済学の歴史（重商主義、重農主義、古典派経済学、限界革命によって成立した新古典派経済学、ケインズ経済学等）と経済の歴史を概観します。これらを概観する中で、資本主義経済の政治的・社会的・制度的な諸側面をも含む包括的理解の仕方を身につけることが可能になるように配慮しつつ講義を進めていきます。なお、本講義は、直接的にはマルクス経済学（経済原論ＩＢ）の基礎を解説することを目的としますが、上記講義内容から見て分かるように、その内容は、経済原論ＩＡの入門ないしは基礎理論ともなっています。

［講義計画］

1．経済学とは何か。なぜ経済学を学ぶのか。
2．経済史の概観。経済学の歴史の概観。
　　1，重商主義
　　2．重農主義
　　3．アダム・スミスの経済学。
　　4．D.リカードの経済学
　　5．Ｊ・Ｓ・ミルの経済学
3，経済学の基礎理論
　　6，限界革命と新古典派経済学
　　7，ケインズ経済学
　　8．マルクス経済学
　　　1．商品と貨幣
　　　2．資本と剰余価値
　　　3．資本の蓄積

［成績評価の方法］

前期末と後期末の２回のテストを行う。成績評価は原則的にこれよって行なうが、成績不良者を救済するために、講義中に数回テストを行う予定。

［教科書］

テキストは指定しない。できるだけ出席してしっかりノートを取ること。

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学概論		通　期	4単位	伊藤正純

［講義概要・学習目標］

いま経済学を教えるのは非常にむずかしくなっていると言われている。その一因として、相対的に社会的問題意識が希薄になっている今日の大学生は、具体的事象から抽象的な普遍性を演繹するのを苦手としていることが考えられる。そこで講義では、まず労使関係に焦点をあて、日本、アメリカ、スウェーデン、オランダの労使関係の特徴を紹介しながら、資本（ー賃労働）関係論（蓄積・再生産論、国民所得論、階級論）への導入を試みる。次いで、現代資本主義論を特徴づける信用論（銀行論、株式会社論）に言及するつもりである。ただ、あまり理論的に説明することは避け、なるべく現代の事例を紹介しながら説明してみたい。当然、経済のグローバル化、財政の問題にも言及することになる。ところが、今日、経済のグローバル化、市場主義の問題点が明らかになってきている。そこで、この問題点がクリアにでている環境問題と、資本主義的労資関係を資本主義の内部で超える働き方の模索である労働者協同組合（運動）にも言及したい。受講者は、現実の経済の一端を知ることによって、経済学に対する興味を喚起してほしい。

［講義計画］

＜前期＞(1)労使関係論、(2)資本関係論（蓄積・再生産論、国民所得論、階級論）

＜後期＞(3)信用論（銀行論、株式会社論）、(4)経済のグローバル化、(5)環境問題、(6)労働者協同組合

［成績評価の方法］

講義に対する短い感想文を書かせる形で、出欠を適宜とる。評価は、前期末のレポートが５０点、後期末の試験が５０点で、その合計で行う。

［教科書］

使用しない。プリントを配布し、それに基づいて講義する。

［参考文献］

①八木紀一郎・山田鋭夫他編著『復権する市民社会論』日本評論社
②仲野組子『アメリカの非正規雇用』青木書店
③長坂寿久『オランダ・モデル』日本経済新聞社
④金子勝『日本再生論』日本放送出版協会
その他、適宜紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
現代経済概説		通　期	4単位	鈴　木　健

［講義概要・学習目標］

本講義の目標は、日々報じられる世界と日本の政治・経済現象に関わるニュースに接して、その全体的な脈絡に「関心」を向けられる程度に受講生の政治・経済的な「知識」の水準を高めることにある。

とりあげるテーマは多岐にわたるが、現代の政治・経済現象の意味を理解するうえで有効と思われる最新のテーマを中心にとりあげ、解説的に講義を進めることにする。日々生じる政治・経済現象は密接につながっており、グローバライゼーションの進展とともに、ますますそのつながりを緊密にしている。切り離しがたく結びつく政治・経済現象をできるかぎり体系的にとらえられるように配慮しながら、問題をとりあげることにする。なお、受講生は新聞を毎日よく読んでおくことが望ましい。

［講義計画］

以下に記載するのは、本年度とりあげる予定のテーマであって、確定したものではありません。重要な政治・経済現象が発生するとき、随時それらをとりあげて解説的に講義することになるからです。

・第一回、年間講義計画の概要、
・第二回以降に取り上げるテーマ、
・グローバル・エコノミーと大競争
・グローバライゼーションとカジノ資本主義
・世界経済に占めるアメリカ経済の位置、
・国際的な協議機関の役割
・国民経済からトランスナショナル経済へ
・市場と国家、企業と国家・国民経済、
・アメリカ経済の現状
・アメリカ経済の現状①
・ユーロ経済について①
・日本的経済システム①
・日本的経済システムの行き詰まり
・バブルの膨張と破綻①
・産業再編とM＆A
・金融恐慌と日本版ビッグバン②
・金融再編②
・その他、
・アメリカ経済とM＆A
・アジア経済の現状②
・ユーロ経済について②
・日本的経済システム②
・政－官－財癒着の統治システム
・バブルの膨張と破綻②
・金融恐慌と日本版ビッグバン①
・金融再編①

［成績評価の方法］

・年数回提出してもらうレポートの提出回数とレポートの内容によって判定する。

［教科書］

・使用しない。テーマ毎にレジュメを用意する。
・受講生は新聞をよく読むこと。

［参考文献］

・テーマ毎に、そのつど紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
一　般　経　済　史	０１	通　期	4単位	梅　本　哲　世

［講義概要・学習目標］

ソ連・東欧などのいわゆる「社会主義国」の崩壊によって、あたかも「資本主義」の優位性が実証されたかのように論じる見解も多い。しかし、資本主義は、環境破壊、核兵器の脅威、民族紛争、恐慌など、多くの問題を抱えている。このような時代であるからこそ、目を過去に向けて資本主義の生成と発展の過程を科学的に分析する必要があるだろう。

この講義では、まず、経済史を扱う場合に必要な基本概念を説明し、その後に、前資本主義的な生産様式の発展過程を検討する。さらに、資本主義がいかに封建制社会のなかから発生して発展したかを、移行期、産業資本主義、帝国主義に分けて説明する。

この講義全体を通じて、資本主義のもつ独自な歴史的性格を明らかにしたい。過去を振り返ることによって、未来を見通す能力を身につけるというのが、この講義の目標である。

［講義計画］

【前期】
1．序論
2．前資本主義経済の特質
3．資本主義の成立
4．資本主義的世界体制

【後期】
1．日本の近代化とアジア
2．帝国主義の時代
3．戦間期の世界経済
4．２０世紀前半のアジアと日本
5．戦後の世界経済

［成績評価の方法］

随時出席調査および小テストをおこない、学年末試験の成績とあわせて評価する。

［教科書］

老川慶喜・小笠原茂・中島俊克編『経済史』（東京堂出版）

［参考文献］

授業中に適時指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
一 般 経 済 史	０２	通　期	４単位	富 澤 修 身

［講義概要・学習目標］

長い混迷状態にある日本経済、通貨経済危機を経ても勢いを感じさせるアジア経済、情報技術革命を手がかりに成長を続けるアメリカ経済、そしてさまざまな実験を行い社会的リーダーシップを示す西欧諸国という具合に、現代経済はさまざまな国・地域から構成されている。世界と日本の２１世紀を考えるとき、来し方を振り返ることが必要となる。歴史は、現代と未来のあり方を構想する際の手がかりを与えてくれるからである。

講義では、イギリス、アメリカ、日本の歴史を素材にして、１８世紀の経済史、１９世紀の経済史、２０世紀の経済史について論じる。

［講義計画］

Ⅰ　はじめに
Ⅱ　産業革命
　１　イギリス産業革命
　２　後発国・地域の工業化
Ⅲ　１８世紀の経済史
　１　問屋制経営
　２　協業
　３　マニュファクチュア
Ⅳ　１９世紀の経済史
　１　機械制大工業
　２　鉄道経営
Ⅴ　２０世紀の経済史
　１　大企業の登場
　２　１９３０年代ニューディール
　３　現代日本経済とリストラ

［成績評価の方法］

定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。

［教科書］

富澤修身著『アメリカ南部の工業化』（創風社）

［参考文献］

なし

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学のための数学入門		通　期	４単位	安 藤 洋 美

［講義概要・学習目標］

１９世紀の偉大な物理学者ギッブスは「数学もまた言語なり」と述べた。この言葉を２０世紀の経済学者サミュエルソンが、その著『経済分析の基礎』の巻頭に書き付けた。このことからも分かるように、数学は書き言葉だけの一種の言語である。だから、どんな科学でも、それが取り扱う研究対象を精密に表現しようとすると、日常言語もさることながら、数学言語の方が簡潔に表現できて、便利なことが多い。この講義では、経済学の学習でよく用いられる数学的手法のうち、極めて基本的なものを中心に紹介したい。内容は主として微積分と線型代数に関するものになる。言語の修得にはある程度の忍耐と努力が必要であるように、数学の学習も忍耐と努力が必要である。出席常ならざれば、すぐさま理解できなくなることは言うまでもない。教科書にある練習問題も自学自習して理解を深めてほしい。

［講義計画］

＜前期＞（微分積分）微分の基礎、関数の極大・極小、初等関数の微分、偏微分とその応用、不定積分、定積分、積分の応用、簡単な微分方程式

＜後期＞（線型代数）ベクトルと行列、１次変換の表現、行列の基本変形、逆行列と連立方程式、行列式、行列の階数と次元、固有値と固有ベクトル、産業連関分析

［成績評価の方法］

前期、後期の最終講義日に試験して評価する。

［教科書］

矢野健太郎・田代嘉弘『社会科学者のための基礎数学』（裳華房）

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学		通　期	4単位	清　水　夏　樹

[講義概要・学習目標]

集団、組織、ネットワーク、地域社会、福祉文化といった基礎概念をまなぶことから始め、社会学的なの見方・とらえ方とはどういうことかを理解できるよう概説する。とくに、「共同体」から「協同体」へまた、「ハード」から「ソフト」へ、という情報化社会の動向を軸に、情報通信技術の高度化にともなう諸問題をとりあげ、現代社会の光と影－健康面と病理面－を照射してみたい。日常的な話題やトピックスに眼を向けつつも、現代社会を生み出した歴史性とアイデンティティの準拠基盤を問う姿勢を忘れずに学んでほしい。

[講義計画]

前期：社会的自我の形成　期待と役割　言葉とコミュニケーション
役割と組織　集団と社会的行為　文化と行動様式
共同体社会と集合表象　準拠集団の準拠性レベル

後期：階層と階級　宗教と社会　中産階層と市民社会
情報ネットワーク化と文化的協同体　消費社会と新しい集団
準拠性

[成績評価の方法]

年度末試験。簡易レポート　簡易テストを随時参照する

[参考文献]

授業中に指示する。

[教科書]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経　営　学		通　期	4単位	道　明　義　弘

[講義概要・学習目標]

この講義では、グローバル・スタンダードのもとにおいて、現在、わが国の経営が直面している重要な課題、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の問題を多様な側面から考えることによって、経営の行動について理解し、わが国の経営が進んでいくのが望ましいと考えられる方向について、現実に起こっている情況をふまえて、各自が考えることができるようになることを目的としている。そのために、アメリカにおける情況、および、諸外国の情況を考慮しつつ、日本の「経営の行動」が置かれている非常に厳しい情況と、それに対処している各経営の行動について、できるだけ具体的に、法制にも注意しつつ、考えていく。アメリカの情況については、下記の教科書を用いて見ていくことにしたい。さらに、理解を促進するために、多様な資料を提供・利用し、実際の情況をできるだけ問題点を明らかにしつつ、具体的に考えることができるようしていく予定である。

[講義計画]

講義は、以下の順序で進めていく予定である。

1．経営の行動とコーポレート・ガバナンス
2．アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの過去と現在
　テキスト『アメリカの取締役』は次のような内容である。
　　典型的な取締役会の機能
　　一般に認められている役割
　　支配力
　　取締役の選任と動機付けの基準
　　内部取締役
　　取締役としての投資銀行家
　　同族会社における取締役会
3．諸外国のコーポレート・ガバナンスの情況
4．わが国のコーポレート・ガバナンスの現状と経営の進むべき方向

以上の順序で説明を進める予定である。そして、それぞれの内容について、理解を促進するために、できるだけ新しい情報を提供していくことによって、今の状況に直面する経営における諸問題について考えることができるようにしていきたい。

[成績評価の方法]

講義の理解度をチェックする目的で講義中に実施する数度の小テスト、及び、「経営の行動」に関する最終レポートによって評価する。最終レポートの課題については、講義の終了時に提示する予定。

[参考文献]

山本安次郎・加藤勝康編著『経営学原論』文眞堂、１９８２年
山本安次郎・加藤勝康編著『経営発展論』文眞堂、１９９７年

他の参考文献については、講義の中で指示する。また、講義で利用する資料については、適宜講義の中で配布する予定である。

[教科書]

メイス著『アメリカの取締役－神話と現実－』文眞堂、１９９７年

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
法学	０１	通　期	４単位	前田　徹生

［講義概要・学習目標］

概 要

市民の社会生活に関連の深い法分野について、基礎的な知識を講述する。
私語・遅刻は厳禁。
なお、下記の教科書は毎授業時間に携帯すべき本という意味である。

目 標

1　社会生活における法の作用や役割について理解させる。
2　憲法、民法及び行政法の基礎を理解させる。
3　基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

［講義計画］

1　社会生活と法
2　憲法
　1）基本原理
　2）基本的人権
　3）地方自治
3　民法
　1）総則（成年後見を含む）
　2）物権
　3）契約
　4）不法行為
　5）親族
　6）相続
4　行政法
　1）行政行為及び行政手続
　2）行政不服審査
　3）行政訴訟
　4）情報公開
　5）地方行政組織

［成績評価の方法］

前期、後期の二度の試験を総合して評価する。

［教科書］

伊藤正己　『法学』〔第二版〕　有信堂

参考文献］

伊藤正己・加藤一郎　編　『現代法入門』〔第３版補訂版〕　有斐閣
中谷実　編　『ハイブリッド憲法』　頸草書房
芦部信喜　『憲法』　岩波書店
谷口知平・甲斐道太郎　編　『現代民法入門』〔新版〕　法律文化社

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
法学	０２	通期	４単位	寺田　友子

［講義概要・学習目標］

学習目標　刑事手続を素材に日本国憲法の人権保障・違憲法令審査制度について理解を深める。

講義概要　日本国憲法は、明治憲法下の人権侵害を反省して詳細な人権保障条項を規定した。前期は、日本国憲法制定史をも踏まえて、国家の国民に対する権力行使である刑罰権の発動にかかわる罪刑法定主義を理解する。その前提として、刑罰の意義及び種類並びに犯罪成立要件についての基礎的知識をも体得する。それまでの基本的知識を整理し、理解を深めるために安楽死判決を素材にする。その判決を学ぶ過程で、法源の機能、法の適用過程等について理解する。次に、日本国憲法の最高法規性を学んだ上で、死刑の合憲判決、尊属殺人罪違憲判決を詳細に検討する。その過程で家族法に関する基本的概念を学ぶ。又、平等原則についても理解を得たうえで、非嫡出子の相続分規定の合憲判決も検討する。 その過程で違憲法令審査制度の機能について理解する。

後期は、法源の種類（憲法の意義、条約、法律、命令、条例、最高裁判所規則、議院規則 ）、形式的効力等法の効力等についても憲法訴訟(砂川事件、奈良県ため池条例事件、徳島県公安条例事件、ＮＨＫ放送公布事件、官報公布事件等々）を素材に理解を深める。その際、三権分立等国家の機構についても理解する。これらの判決を学ぶ過程で、人権保障の内容(刑事補償と国家賠償)と憲法の最高法規性、違憲法令審査制度についても理解を深める。

［講義計画］

前期　§1　刑罰の種類
　　2　犯罪成立要件
　　3　法の適用過程
　　4　安楽死訴訟
　　5　憲法の最高法規性と違憲法令審査制度
　　6　死刑の合憲判決
　　7　尊属殺人罪と家族法の基礎概念
　　8　平等原則と尊属殺人罪違憲判決
後期　　9　法治国家と罪刑法定主義
　　10　命令概念と行政機構
　　11　全農林警職法事件と労働基本権
　　12　条例概念と大阪市売春防止条例
　　13　奈良県ため池条例事件と徳島条例事件
　　14　形式的効力の原則と条約の概念
　　15　法の時間的効力と公布をめぐる諸般決
　　16　同位の法間の効力関係と国家補償
　　17　損害賠償における特別法と一般法

［成績評価の方法］

基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出、出席、授業時間に行うテスト等を評価に加味する。

［教科書］

『ポケット六法　　平成１３年版』（有斐閣）

［参考文献］

芦辺・高橋・長谷部『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第４版）』（有斐閣）
中谷実編『ハイブリッド憲法』　1995年　勁草書房
渡辺洋三著『法とは何か』 岩波書店
渡辺洋三著『法を学ぶ』 岩波書店

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会科学入門		通　期	4 単位	阿　部　秀二郎

[講義概要・学習目標]

「科学」とは、何でしょうか。それは時に「知識」ということばに置き換えられます。そしてその「知識」を利用するのは、われわれ人間です。「知識」の無い時代の人々はひどく不自由でした。なぜなら迷信や伝統に束縛されていたからです。われわれはずいぶん自由になっています。けれども「知識」を得る必要が無くなった訳ではなく、むしろますます必要になってきていますし、今後ますます必要性は増大することでしょう。それはどうしてでしょうか？

この講義では、「知識」をよりよく吸収するスポンジに皆さんがなれるように、ビデオを教材に使用して、「科学」を考えていきます。

[講義計画]

1. 公害問題・環境問題
2. 労働問題
3. 市場経済
4. 不況の発生・失業問題
5. 戦争
6. 商品経済と『国家』の役割
7. 国家と民族問題

[成績評価の方法]

試験によって評価するのが基本ですが、ビデオ鑑賞後に、短いレポートを提出してもらいます。そしてそれを「加点」の要素にします。

[教科書]

用いません。

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
日本近代史		通　期	4 単位	佐々木　和　子

[講義概要・学習目標]

明治維新以降の日本近代史の諸側面を、代表的な都市である大阪の歩みを縦軸に概観する。特に都市の生活環境の変化とそれに伴う諸問題の発生や行政の対応といった観点からとらえていく。また、科学化された家事教育によって衛生思想の普及をはかった大阪での動きについても検討する。

[講義計画]

1、日本資本主義の発達と大阪
2、大阪の都市環境の変化
3、大阪市立衛生試験所と雑誌「家事と衛生」
4、地域資料と文書館
以上の様な項目に留意しながら講義をおこなう。

[成績評価の方法]

定期試験の成績と平常成績とで総合的に評価する。

[教科書]

[参考文献]

「新修大阪市史」第7巻（1994年）
「大阪府の百年」（山川出版社、1991年）
「日本の文書館」（岩田書院、1997年）など

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩＡ－１（ミクロ経済学）	０１	通　期	４単位	駿河　輝和

［講義概要・学習目標］

現代経済における市場の果たす役割を理解することと、現実経済分析に必要な価格理論の考え方を習得することを目的にしている。

［講義計画］

需要と供給、消費者行動、生産者行動、競争市場と効率性、独占寡占、市場の失敗など市場の働きについて講義する。

［成績評価の方法］

２回の試験

［教科書］

倉澤資成著『入門価格理論　第２版』日本評論社

［参考文献］

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩＡ－１　（ミクロ経済学）	０２	通　期	４単位	竹　歳　一　紀

［講義概要・学習目標］

ミクロ経済学の基礎理論について講義する。①家計（消費者）、企業（生産者）といった経済主体の行動がどのようにモデル化されるか、②それら経済主体の消費や生産が、市場価格を通じてどのように決定されるか、③消費や生産が市場での価格メカニズムを通じて決定されることがなぜ望ましいといえるのか、といったミクロ経済学の基本を理解することが目標である。

ミクロ経済学の進んだ学習には数学的知識が必要となるが、本講義では数式の使用は極力避け、主に図を用いて説明する。なお、ミクロ経済学の学習は基礎からの積み上げになるので、講義に出席し、内容を確実にフォローしていくことが望まれる。

［講義計画］

前期
1．ミクロ経済学の基本概念
2．需要と供給
3．消費者行動の理論

後期
4．生産者行動の理論
5．市場均衡と経済厚生
6．独占の理論
7．生産要素市場
8．不確実性と情報

［成績評価の方法］

前期試験、学年末試験の成績による

［教科書］

西村和雄（著）『ミクロ経済学』（岩波書店）

［参考文献］

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩＡ－１（ミクロ経済学）	０３	通　期	４単位	牧　野　源　泉

［講義概要・学習目標］

この講義のねらいを一口で言えば、市場機構の機能とパフォーマンスを理解していただく、ということです。
そこでまず、個人の消費計画や企業の生産計画はどのように立てられるのか、また、価格は消費計画と生産計画の不整合をどのように調整するか、といった市場メカニズムの基本的な問題を説明します。続いて、市場メカニズムの評価に目を向け、広い意味での「市場の失敗」の問題に言及します。
さらに、近年注目されているゲーム論的接近の仕方、および、不完全情報や不確実性のもとでの意志決定といった問題にも触れます。

［講義計画］

1　需要と供給
2　消費者行動と需要曲線
3　労働供給の理論
4　費用構造と生産
5　市場均衡と資源配分
6　市場の失敗と公共部門の役割
7　不完全競争の理論
8　ゲームの理論
9　不完全情報の経済学
１０　不確実性とリスク
１１　異時点間の意志決定と利子率

［成績評価の方法］

講義中に時折行う小テストと学年度末試験とによって評点をつけます。

［参考文献］

・梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
・伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社

［教科書］

倉澤資成『入門価格理論』日本評論社

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩＡ－１（ミクロ経済学）	０４	通　期	４単位	中　村　勝　之

［講義概要・学習目標］

この講義は、『経済学基礎理論A』で解説した「ミクロ経済学」の内容をもう少し詳細に見ていこうとするものである。そのため講義内容は『経済学基礎理論A』と重複する部分があるが、あまりそれにはこだわらずにやっていきたい。ただし以下の諸点において、『経済学基礎理論A』と異なった内容となる。

①ミクロ経済学における「応用分野」に重点がおかれる。つまりより現実に即した内容を詳細に見ていこうとするものである。具体的には、「不完全競争市場」「環境問題」などがこれに該当する。
②「基礎分野」と①を総合することで、公務員試験の問題などに対応できるようにする。
③経済学の究極的な目的は、人々の「意思決定」を分析するものである。しかし人々の意思決定は、何も経済現象に限ったことではない。よって経済現象に限定せず、人々の意思決定について考察される。

ミクロ経済学はさまざまな分野に応用されるが、この講義でそのすべてを網羅することは極めて難しい。しかしながら議論をある特定分野に絞ってみたときに、ミクロ経済学が極めて「汎用性の高い」分野であることがわかるであろう。

［講義計画］

詳細については第１回講義時に提示する予定であるが、前期の大半をかけて、ミクロ経済学の「基礎分野（完全競争市場）」を講義する。その後後期の前半部分にかけて「応用分野」に話を進め、最後に人々の「意思決定」をより広い観点から講義していく。
なお、講義は必要に応じて「数学」を利用していくが、これについてはその都度（もしくは講義の初期段階で一括して）解説していく。また履修に際しては、『経済学基礎理論A』『経済数学』を履修していることがより望ましいが、初学者でも十分対応できるような講義内容にする。

［成績評価の方法］

受講生数にもよるが、小テスト・レポート・試験などを総合的に評価する。この際に「出席」を加味することがある。

［参考文献］

適宜提示していく。

［教科書］

使用しない。適宜資料を配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩＡ－２（マクロ経済学）	０１	前期集中	４単位	伊代田　光　彦

［講義概要・学習目標］

近代経済学の立場からマクロ経済学の講義を行う。

経済成長というのはどういうことなのだろうか。国全体の所得はどのようにして決定されるのだろうか。失業はなぜ生じるのだろうか。景気変動はなぜ起こるのだろうか。内外価格差はなぜ存在するのだろうか。このような問題に答えるためには、経済全体の仕組みを明らかにし、解決の処方箋を与えることのできる理論が必要となる。このための基礎理論がマクロ経済学である。従ってマクロ経済理論というのは、いわば経済全体の大きな眺めを扱う経済理論の分野である。

もう少し具体的な内容は講義計画の中に列挙されている。講義においては、理論をできるだけ現実の問題に関連づけ、具体例を上げながらゆっくり進めていくつもりである。

［講義計画］

序論　１～４章
　1　経済学とは何か
　2　経済学の体系と接近法
　3　経済学の系譜
　4　経済秩序の基本的特徴

本論　１～８章（各章２～３回）
　1　国民所得の概念
　2　国民所得の決定とその応用
　3　貨幣分析
　4　国民所得の変動と総需要管理政策
　5　物価変動
　6　所得分配
　7　国際貿易
　8　マクロ経済学の展開

［成績評価の方法］

原則として年度末試験によって行う。

［教科書］

稲別正晴・伊代田光彦・植田政孝（共著）『新版現代経済学の基礎（全訂）』（法律文化社、1998年）

［参考文献］

サムエルソン（著）『経済学（第13版上）』（岩波書店、1992年）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩA-2（マクロ経済学）	02	通期	4単位	森　誠

［講義概要・学習目標］

近代経済学のマクロ経済学を講義します。

まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介します。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。

近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思います。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも１年後にはずいぶん慣れているはずです。

講義では教科書の森担当の章を参考にします。この章はかなり進んだ内容も含んでいますが、講義では初歩から解説します。そして最終的には３節までの内容を理解することを目的とします。

［講義計画］

1、GDPと３面等価の原則
2、実質と名目
3、ISバランス－貿易黒字と貯蓄－
4、GDP決定論の基礎
5、均衡予算定理
6、IS曲線
7、LM曲線
8、財政政策と金融政策の効果
9、リカード命題
10、長期の最適化と財政政策の有効性

［成績評価の方法］

年度末試験

［教科書］

惣宇利紀男、服部容教編『２１世紀の経済政策』日本評論社

［参考文献］

・吉川洋『マクロ経済学』岩波
　ケインズ派の立場によるマクロ経済学
・浜田・安井『マクロ経済学の基礎』有斐閣
　問題形式（命題に対する解説）をとっているのでポイントを押さえる、あるいは、公務員試験対策には向いています。
・瀬岡吉彦『資本主義経済の理論』ミネルヴァ
　新古典派、ケインズ派の問題点の指摘とそれに対する著者の考えが展開されています。通説に疑問を感じたとき見てみるとよいでしょう。ただし難しい本です。

その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論　IA－2　(マクロ経済学)	03	通期	4単位	矢根　真二

[講義概要・学習目標]

マクロ経済とは，日本やアメリカの国民所得・金利・失業・物価・為替などの動きです。「成長率鈍化」や「円高進行」といった形で，毎日のようにテレビや新聞で報道されています。それではどうして好況や不況，円高や円安が起きるのでしょう？　なぜ，そうした変動が起こると困るのでしょう？　さらに，どうすれば問題を解決できるのでしょう？

こうした課題に答えるために，様々な**マクロモデル（マクロ経済を把握するための模型）**が開発されています。**マクロ経済学**の目的は，マクロモデルの学習を通じて，マクロ経済の変動の原因と適切な政策を解明することです。基本的なマクロモデルは万国共通ですから，テキストには世界有数のエコノミストによるやさしい入門書を用います。この入門レベルのモデルを修得するだけでも，株式市場を動かすニュースや経済白書などの考え方をよりよく理解できるようになるはずです。

ただしマクロモデルは現代経済学の基本的なパーツですから，ただ丸暗記するだけではダメで，現実を抽象化して論理的に考える**科学的思考**が必要です。実際，1年後の成長率やインフレ率を予測・説明するには簡単なグラフや数式によるモデルが必要になりますから，講義でも中学程度の数学を駆使して様々なマクロ現象を理解する練習が重要になります。もっとも講義では，たとえ中学程度の知識でも必要な道具はすべて解説しますが，グラフや記号のアレルギーにかけては人一倍の自信がある方はドウリングなどの最初の部分を一読しておくと効果的です。

[講義計画]

講義内容は標準的なテキストの**入門レベル内容**なので，一部の**経済学基礎理論A**の講義内容とかなり重複しますが，モデル思考に慣れテキストをより明確に理解できるように，簡単な**基本モデルの操作**を繰り返し学習するのが特徴です。ですから，基本的な新古典派モデルとケインズ派モデルの解説が中心になります。細目については教員HPを参照して下さい。

（1）マクロモデルの基礎と長期マクロモデル

経済学基礎理論Aやミクロ経済学で学習する「**競争市場の均衡モデル**」は，完全雇用やハイパーインフレを説明する**新古典派マクロモデル**の基礎になります。そこで，国民所得や物価の測定の仕方を学ぶと共に，その長期的な変動要因を新古典派マクロモデルに従って学習します。

（2）短期マクロモデルと財政・金融政策の有効性

「長期にはみんな死んでしまう」として，新古典派的な見方を批判したのはケインズでした。そこで，価格を固定した**ケインズ派モデル**による失業の見方を学ぶと共に，様々な角度から**財政政策や金融政策の有効性**を学習します。

（3）現代マクロモデルのトピックス

消費や投資そして為替レートに対する様々な見方，景気循環や経済成長に対する考え方，実際に政府がどんな政策を採用してきたかをうまく説明する方法，マクロ経済学とミクロ経済学の接合の仕方などをめぐって，様々な新しいモデルが開発されています。時間が許せば，こうした新しいマクロモデルのトピックスを学習します。

[成績評価の方法]

試験の合計点が6割以上を合格とする予定

[教科書]

●マンキュー『経済学 II マクロ篇』東洋経済新報社

科学・モデル・関数・競争・市場・均衡といった現代経済学の基礎概念を忘れてしまった人でも，テキストの第1部に要約してあるので，とても便利です

[参考文献]

●実際の景気や物価のデータの所在や参考文献などの詳細については，**教員HP（http://rio.andrew.ac.jp/~yane/)**を参照して下さい。

●モデル思考や市場の基本モデルは経済学の入り口で基礎理論Aでの学習事項ですが，「何やそれ？」と思う方はテキストの第1部ないしそのミクロ篇の一読を推奨します。

●講義で説明する中学程度のグラフや数式にも強いアレルギーのある人には，図書館などでドウリング『例題で学ぶ：入門・経済数学　上』シーエービー出版　の第1章・2章がやさしい解毒剤になるでしょう。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩＢ	01	通　期	4単位	滝　田　和　夫

[講義概要・学習目標]

マルクスの経済学について講義する。そこでは『資本論』全三巻の基礎概念や基本的論理構造の解説と問題点の検討を中心に、マルクスの経済学の体系的理解を目標として講義を進める。それと同時に、マルクスの経済学と古典派経済学との関わりや、現代マルクス経済学の到達点、さらにはいわゆる近代経済学との相違もできるだけ明らかにしていきたい。使用テキストは平明に書かれているので、事前に一読しておくと講義が理解し易いであろう。

[講義計画]

＜前期＞

Ⅰ．経済学の対象と方法

Ⅱ．市場経済

　1．商品経済

　2．貨幣経済

Ⅲ．資本とその増殖

　1．貨幣の資本への転化

　2．絶対的剰余価値の生産

　3．相対的剰余価値の生産

＜後期＞

Ⅳ．価格と利潤

Ⅴ．資本の再生産と蓄積

　1．資本の蓄積過程

　2．社会的総資本の再生産過程

　3．利潤率の傾向的低下法則

[成績評価の方法]

年2回行なう試験の成績による。

[教科書]

平井・北川・滝田（共著）『経済原論』（有斐閣）

[参考文献]

置塩信雄（著）『マルクス経済学』筑摩書房

森嶋通夫（著）高須賀義博（訳）『マルクスの経済学』（東洋経済新報社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済原論ＩＢ	０２	**通　期**	４単位	**松尾　純**

［講義概要・学習目標］

ソ連・東欧の「社会主義」の崩壊とその後の資本主義経済の「復活」、中国共産党が推進している「市場社会主義」建設。これらの事態は、マルクスの考えていた社会主義とはどのような社会システムであったのか,そして、それは人類が求める理想社会を実現するものであるのか、という問題を我々に投げかけているように思われる。

他方、ソ連・東欧の「社会主義」の崩壊によって一旦「勝利」したと見られた資本主義もその行方は不透明であり、現存の資本主義社会は人間に幸福をもたらしているとは必ずしもいえない状況が続いているように思われる。

本講義では、このような問題状況を克服する礎を得るために、資本主義批判と社会主義の実現を使命として100年前に誕生したマルクス経済学の新世紀における”再構築”を目指す。そのため、従来科書的に理解されてきたマルクス経済学の諸命題について根本的な再検討を加えつつ、講義を進めていくことにしたい。

［講義計画］

（前期）１．唯物史観とは何か。
２．労働疎外論とは何か。
３．『共産党宣言』には何が書かれているか。
４．マルクスの社会主義像とソ連・東欧の「社会主義」
（後期）１．経済学の対象と方法。
２．商品とは何か。
３．貨幣とは何か（本質と諸機能）
４．資本とは何か。
５．資本の生産過程
６．資本の蓄積と再生産
７．過剰人口論と資本過剰論

［成績評価の方法］

成績の評価は年度末に行う試験結果による。出席率は一切考慮しない。 出題形式は、語句説明５～６問と選択式論述問題１問である。

［教科書］

講義概要の趣旨から分かるように、教科書は使用しない。

［参考文献］

参考書は授業時間中に適宜お知らせします

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経済学史Ｉ （旧経済学史）		通　期	４単位	熊谷　次郎

［講義概要・学習目標］

経済的な営みは人類の歴史そのものといってもよいだろう。そして多少とも自覚的な経済分析も古代のギリシャや中国で始められていた。しかし、近代的な経済思考（経済活動にはそれ固有の法則性があるという認識）は、16世紀から17世紀にかけての地理上の発見、商業革命、資本主義「世界システム」の形成、国民国家の抬頭、科学革命などを背景に形成された。

この講義では、まずこうした歴史的背景のなか、近世から近代にかけて、諸国家が共通して採用した重商主義政策の思想と理論について説明する。重商主義時代は、経済学の「星雲時代」とも言われており、その混沌のなかに経済学の面白さがあることがわかってもらえれば、講義の前半は成功と考えている。ついで重商主義を批判して登場した、アダム・スミスにはじまる古典派経済学を取り上げる。

経済学者はもちろんのこと、どんな実際家――政治家、実業家、官僚等――であっても、「過去のある経済学者の奴隷であるのが普通である」と言ったのはケインズであるが、現代の経済思想も、それが自由主義的市場万能論であろうと、政府による経済の規制論であろうと、経済学史上ではすでにいろいろなエコノミストが論じてきた。だから経済学が過去おいて何を問題にし、どう論じていたを学ぶことは、同時に現在の問題を考えることでもある。経済学史を学ぶことで、現代の経済と経済学へのアプローチに広がりと深みがえられるだろう。

［講義計画］

＜前期＞　経済学史とは何か、という導入的講義からはじめて、序章的意味を持つ経済的思考生誕の背景を説明した後で、重商主義の経済学を中心に講義する。トマス・マンの『外国貿易によるイングランドの財宝』（１６６４）からジェームズ・ステュアートの『経済の原理』（１７６７）までがその範囲となる。重商主義の経済学は基本的に貨幣的分析であるという視点から、外国貿易、国内市場、インダストリー、奢侈、価値、貨幣、利子、国家と経済との関係などを経済史や思想史を眼界におさめながら説明していく。

＜後期＞　なによりも重商主義批判の書であるアダム・スミスの『国富論』（１７７６）がなにゆえに経済学の古典と呼ばれるのか、という点の説明を皮切りに、スミス以後の代表的な経済学者としてリカード、マルサス、ジョン・スチュアート・ミル等の古典派経済学を取りあげる。重商主義が貨幣的分析であるとすれば、古典派経済学は実物的分析といってよいだろう。この実物的視点が持つ積極的意味と問題点を論じるつもりである。時間に余裕があれば、経済学の古典派時代を部分的に共有したマルクス、フリードリヒ・リストにも言及したい。

［成績評価の方法］

基本的には期末試験の成績をもってする。出欠は随時とる予定。

［教科書］

未定。場合によっては、使用せずに毎回資料を配布することになるかもしれない。

［参考文献］

小林昇『経済学の形成時代』未来社（『小林昇経済学史著作集』［Ｉ］、未来社、１９７６年に収録）
フィリス・ディーン著／中谷俊博・家本博一・橋本昭一訳『経済認識の歩み』名古屋大学出版会、１９９５年

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
経済学史Ⅱ （旧経済学特講一経済学史Ⅱ）		通　期	4単位	服　部　　容　教

［講義概要・学習目標］

古典派経済学（Classical School）を継承しながら、また別の意味では決別しながらイギリスの近代経済学は発展してきた。このような経済学はAlfred MarshallおよびWilliam Stanley Jevonsの経済学に見ることが出来る.

今年度の講義では、主としてこのようなイギリスの経済学の発展を、近代経済学の出発点であると考えられている「限界革命」（marginal revolution）に貢献したJevonsの経済学から講義を始める。

この講義では、経済学者の著した主要な著書の一部分ではあるが、その原典にあたって著者の真意を確かめながら理論的な内容を検討してゆくつもりである。

主としてこの講義で登場する経済学者と彼らの著書は以下の通りである。

#William Stanley Jevons, *The Theory of Political Economy*, 1871.
#Alfred Marshall, *Principles of Economics*, 1921(8th edition)
#Joan Robinson, *The Economics of Imperfect Competition*, 1939.
#John Maynard Keynes, *The General Theory of Employment, Interest, and Money*, 1936

以上の著作から一部分を引用する形で講義資料を用意する。

［講義計画］

（1）「限界革命」（Marginal Revolution）
（2）Jevonsの経済学
（3）Alfred Marshallの経済学
（4）ケンブリッジの費用論争
（5）Keynesの経済学
（6）Keynes以降の経済学

［成績評価の方法］

学年末の試験、レポート、出席等を総合的に判断して評価する。

［教科書］

教科書は採用しないが、授業中に適宜参考文献は指示する。

［参考文献］

授業中に適宜指示する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
経済成長論（旧経済変動論）		通期	4単位	西 川　憲 二

［講義概要・学習目標］

欧諸国は近代工業を築き上げることによって、ここ数百年たらずで、その他世界を席巻してきた。今日では、各国が世界的な経済競争にさらされるようになった。

この講義では、西欧の経済発展の歴史と戦後日本の経済発展を検討する。そして、経済学がこれらの経済発展をどのようにとらえているかを、経済成長理論をもちいて説明する。そのなかで、経済成長の原動力である技術革新の重要性を論じる。

［講義計画］

経済成長とは
近代西欧とアメリカの経済発展
経済成長理論
日本の高度成長と現状

［成績評価の方法］

出席、レポート、年度末試験。

［教科書］

なし。

［参考文献］

なし。